

2024年度JICA横浜 教師海外研修

報告書

研修国：ブラジル連邦共和国



撮影 2024年
教師海外研修同行者

独立行政法人国際協力機構
横浜センター(JICA横浜)

目次

教師海外研修について

教師海外研修とは	3
研修日程	4
海外研修国の概要	5
参加者一覧	6
海外研修日程	7
参加者の訪問先所感	8

実践報告

小 学 校 (4名)

潮 ひ か り	「 ブラジルからの転入生 」	20
	(綾瀬市立天台小学校)	
小 林 良 平	「 みんなに考えてもらいたいこと 」	26
	(茅ヶ崎市立浜須賀小学校)	
田 口 翔 万	「 「東京オリンピック 国旗に込められた思い」から学ぶ国際理解 」	30
	(川崎市立禰原小学校)	
矢 島 美 沙 子	「 友達が考えていることは自分といっしょなのだろうか? 」	34
	(横浜市立南吉田小学校)	

中 学 校 (4名)

石 田 礼 奈	「 長沢中的一天を伝えよう。 」	38
	(横須賀市立長沢中学校)	
長 谷 川 真 美	「 多文化共生を実現するために ～ブラジルから考える～ 」	46
	(河口湖南中学校組合立河口湖南中学校)	
村 松 優 樹	「 文化の多様性とアイデンティティ 」	50
	(横浜市立田奈中学校)	
梁 梨 花	「 「地域ゆめプロジェクト」学年交流会 」	54
Yang Lihwa	(横浜市立豊田中学校)	

高 校 (3名)

押 田 聖 史	「 「移民」と「ルール」について考えよう 」	60
	(神奈川県立厚木王子高等学校)	
菊 池 史 織	「 “Diversity”-Multicultural coexistence- 」	63
	(公文国際学園中等部・高等部)	
芝 健 司	「 世界の人権問題と日本 」	70
	(神奈川県立磯子工業高等学校)	

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICA を代表するものではありません。
※参加者の所属等は、2024年度のものです。

教師海外研修とは

1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の皆さんを対象にした、国内事前研修、海外での現地研修、国内事後研修で構成される国際理解教育・開発教育実践のための研修プログラムです。訪問する国の歴史、現状、人々の生活、国際協力などについて学び、国際理解教育・開発教育の実践者育成と推進を目的としています。

2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察（海外研修）と、海外研修の前後に行う国内研修（事前／事後）の2つのプログラムから成っています。国内研修（事前）では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修（事後）では、所属校内での報告会・研修会や、地域での勉強会・部会などにおいて、積極的に本研修での学びを生かし国際理解教育・開発教育の推進を行い、次代を担う子どもたちの育成のすそ野を広げていただくための施策を考えていただきます。

3. 2024年度のテーマ「多文化共生・移民」

様々なルーツを持つ人々が暮らす多文化社会ブラジルには、これまで約25万人もの日本人が移住し、現在ブラジルに日系人が200万人ほどいると言われています。

多文化化が進行する社会を生きる子どもたちにとって、多文化共生・移民の学習は、異文化理解、人権教育、キャリア教育、国際協力、アイデンティティ確立、SDGs等の観点から最適なテーマになり得ます。異文化との出会い、葛藤、困難、協力、希望を経験してきたブラジル社会や日系人を知ること、大人も子どもたちも、多様性が尊重される社会、多文化が共生する社会づくりに参加することを目指し、そのための手だてとしての教材、発信方法・手法について考えていただきます。

4. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

研修日程

研修名	場所	日程	内容
国内事前研修①	JICA 横浜	2024 年 6 月 22 日 (土)	・本研修概要 ・派遣国 ・視察先の説明 ・海外研修準備 (渡航手続き、健康／安全管理、素材収集の方法)
開発教育教員セミナー (基礎編)	オンライン	2024 年 7 月 6 日 (土)	・開発教育の基礎概念等 ・教材研究の方法
国内事前研修②	JICA 横浜	2024 年 7 月 13 日 (土) 14 日 (日)	・開発教育のワークショップの体験 ・教材研究の方法 ・前回参加教員との交流
海外研修	ブラジル	2024 年 8 月 4 日 (日) ～8 月 17 日 (土)	・開発途上国の現場体験 ・教材研究のための素材収集
国内事後研修①	JICA 横浜	2024 年 8 月 24 日 (土)	・研修先で得た素材の整理 ・教材、発信方法等の検討
国内事後研修②	JICA 横浜	2024 年 9 月 14 日 (土)	
実践授業	所属先	2024 年 9 月 ～2024 年 12 月	・各所属先における授業実践等
開発教育教員セミナー (応用編)	JICA 横浜	2025 年 1 月 11 日 (土) 12 日 (日)	※実践授業報告も行います。 ・開発教育のワークショップの体験 ・参考事例発表
最終報告会	動画	2025 年 2 月～3 月	・研修での学びの共有 ・実践授業の共有

海外研修国の概要



ブラジル連邦共和国 (Federative Republic of Brazil)

首都：ブラジリア
面積：851.2 万平方キロメートル (日本の 22.5 倍)
人口：約 2 億 1,642 万人 (2023 年、世銀)
民族：欧州系 (約 44%)、アフリカ系 (約 10%)、東洋系 (約 0.4%)、混血 (約 45%)、先住民 (約 0.6%)
(ブラジル地理統計院、2022 年)
言語：ポルトガル語
宗教：カトリック約 65%、プロテスタント約 22%、無宗教 8% (ブラジル地理統計院、2010 年)
政体：連邦共和制 (大統領制)
主要産業：製造業、鉱業 (鉄鉱石他)、農牧業 (砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他)
GDP (名目)：2 兆 1,736 億米ドル (2023 年、世銀)
一人当たりの GDP：10,044 米ドル (2023 年、世銀)
経済成長率：3.0% (2013 年)、0.5% (2014 年)、-3.5% (2015 年)、-3.3% (2016 年)、1.3% (2017 年)、
1.8% (2018 年)、1.2% (2019 年)、-3.9% (2020 年)、4.6% (2021 年)、2.9% (2022 年)、
2.9% (2023 年)
通貨：リアル
日本の援助実績：(1) 有償資金協力 (2023 年度まで、E/N ベース) 3,312.94 億円
(2) 無償資金協力 (2023 年度まで、E/N ベース) 56.72 億円
(3) 技術協力 (2023 年度まで、実績ベース) 1,258.46 億円
主要援助国 (2021 年：支出総額, 単位：百万ドル, OECD/DAC)
：(1) フランス (597.55)
(2) 日本 (312.93)
(3) ドイツ (142.91)
(4) 米国 (48.23)
(5) 英国 (41.50)
在留邦人数：46,902 名 (2023 年 10 月現在) (外務省在留邦人数調査統計)
(日系人総数推定 約 270 万人)
在日ブラジル人数：212,325 人 (2024 年 6 月法務省在留外国人統計)

(外務省ホームページより)

海外研修参加者

	氏 名	学 校 名	学年 / 担当教科
1	石田 礼奈	横須賀市立長沢中学校	外国語科(英語) 2年
2	潮 ひかり	綾瀬市立天台小学校	国際教室
3	押田 聖史	神奈川県立厚木王子高等学校	外国語科(英語) 2年
4	菊池 史織	公文国際学園中等部・高等部	外国語科(英語) 高等部2年
5	小林 良平	茅ヶ崎市立浜須賀小学校	総括教諭 4年
6	芝 健司	神奈川県立磯子工業高等学校	地歴公民科 1年
7	田口 翔万	川崎市立稗原小学校	全科 6年
8	長谷川 真美	河口湖南中学校組合立河口湖南中学校	理科 1年
9	村松 優樹	横浜市立田奈中学校	社会科 1年
10	矢島 美沙子	横浜市立南吉田小学校	全科 4年
11	梁 梨花 Yang Lihwa	横浜市立豊田中学校	国語科 1年
12	五味 誠一郎	JICA横浜	
13	福田 訓久	株式会社メディア総合研究所	

(五十音順 / 所属等は2024年3月現在)



海外研修日程

研修名	場所	訪 問 先
8月3日	午後	成田空港発
8月4日	午後	サンパウロ グアルーリョ空港着
8月5日	午前	JICA ブラジル事務所(安全管理・健康管理ブリーフィング) / 昼食
	午後	訪問先紹介、質疑応答 / 夕食
8月6日	午前	【協力隊活動視察】ECCOS学園(私立小中) 【草の根技協】LFC- Casa de Cirilo - CaçapavaLFC (学童施設) / 昼食
	午後	LFC (Lar Fabiano de Cristo)見学 振り返り会 / 夕食
8月7日	午前	【技術協力】交番訪問 / 昼食
	午後	Major Arcy州立学校(公立中高) 振り返り会 / 夕食
8月8日	午前	イピラプエラ公園 アフロブラジル博物館見学 / 昼食
	午後	移民資料館 振り返り会 帰国研修員との交流会
8月9日	午前	サンパウロ州立移住博物館 / 昼食
	午後	中間振り返り会 「あいの子会」(日系人若者の会)との交流
8月10日	午前	サンパウロ グアルーリョ空港出発～ ベレン空港到着
	午後	ベレン港、アマゾン川、コーヒー農園等の散策 ベレン市の協力隊員との交流会
8月11日	午前	ベレン～トメアスーへ移動 / 昼食
	午後	トメアスー文化農業振興協会 (ACTA) 挨拶 【協力隊活動視察】史料館見学 ホームステイ先へ移動
8月12日	午前	ACTA日系小学校 (Escola Nikkei de Tomé Açu) 【技術協力】CAMTA ジュース工場 / 昼食
	午後	アグロフォレストリー農園 視察 振り返り会
8月13日	午前	トメアスー～ベレンへ移動 在ベレン領事事務所表敬訪問 ペロペーゾ市場 / 昼食と教材研究
	午後	ベレン空港出発～ サンパウロ グアルーリョ空港到着
8月14日	午前	サンパウロ市場、リベルダーデ散策
	午後	振り返り会
8月15日	午前	【協力隊活動視察】サンパウロ市内活動ボランティアの活動説明と意見交換会 / 昼食
	午後	JICA ブラジル事務所報告会 所長挨拶 振り返り会 サンパウロ グアルーリョ空港へ移動
8月16日	午前	サンパウロ グアルーリョ空港出発
8月17日	午後	成田空港到着

参加者の訪問先所感

1日目：8月4日 日

● 日本からブラジルまでの移動中および現地到着

前回の国内研修から3週間ぶりに仲間に会えた。安心感に包まれながら、出発に際しての意気込みを語り、日本を出発。離陸とともに、これから始まるぞと気持ちが高まった。エチオピアのアディスアベバ空港で、プチハプニング。水を調達しようとしたら、1本約500円でびっくり。さらに、ある男性から、日本円しか持っていないので自分の分の水も買ってほしいと頼まれた。半分疑いながらもよく話を聞いてみたら、日本に留学中のブラジルの方で、サンパウロに帰省するとのことで同じ便だった。日系の幼馴染にアニメやマンガを教えてもらったのが留学のきっかけのようだった。きっかけ一つで、世界中どこへでも行けるのだなと思った。私たちもそれぞれのきっかけでここに集まったのだと感慨深くなった。最終的にお金も返してもらい、とても良い出会いとなった。長時間フライトに耐え、サンパウロに到着。1周回って何が見えるのだろうか？たくさん感じて、みんなで言葉にしていきたい。(石田)



出発に際し空港で意気込みを語り合いました

2日目：8月5日 月

● JICA 事務所にてブリーフィング

ブラジルにおける安全管理、健康管理について説明を受けた。危険区域があることや強盗に会ったら速やかに全て渡すなどの説明を受け、身が引き締まった。JICA 事務所の入っているビルには、社員専用のゲートや顔認証などがあった。セキュリティ面が強固で日本よりも進んでいると感じた。

事務所周辺のスターバックスやマクドナルドなどのファストフード店の価格は日本と同じくらいだった。会計はカードや電子決済が一般的で、現金で支払うとおつりの準備が十分でないようでおつりが正確に返ってこなかった。売り上げの管理はどうなっているのだろうか？と疑問に思った。(潮)



JICA 事務所内にはユニセックストイレが整備されていた

3日目：8月6日 火

● ECCOS 学園にて学校見学

私立ECCOS学園にて視察をおこなった。UNESCOからの支援もあり、きれいな教室、広々とした中庭や食堂など、設備は整っていた。日本の学校の生徒と比べ、積極的に発言する生徒が多い印象を受けた。ポルトガル語の授業の教材の内容が「日本の動物」だったことに、日本との繋がりを感じた。クラスのルールは生徒たちが決めており、教員の役目は、生徒のルール作りを「induce（導く）」ことだという指導方針に感銘を受けた。(押田)



協力隊員の授業を見学しました

● 草の根協力 LFC 訪問

前半は様々な年代のクラス活動の視察をおこなった。工作をしているクラスやテコンドーをしているクラス、ダンスをしているクラスもあり、子どもたちがイキイキと活動していたことが印象に残っている。

後半はいくつかのグループに分かれ、日本文化の遊びの紹介をした。私は坊主めくりの紹介をしたが、反応は薄く、急遽折り紙に変更した途端、多くの子どもたちが食いついてきたことに驚いた。日本文化の遊びを熱心に取り組む子どもたちを見ることが出来たのは私にとって財産となった。子どもたちが純粋なのは、ブラジル、日本だけではなく世界共通なのだろうなと思った。(押田)



子どもたちの純粋な笑顔に癒されました

4日目：8月7日 水

● ヴィラ・ドス・レメディオス交番訪問、視察

おもなプロジェクトの中には交番で行われているとは思えないものも多々含まれていた。また活動にあたる警察官自身が楽しんでいることが映像から伝わってきた。あいさつの中に「心」はきっと伝わるとい言葉があったが、年齢や障害の有無に関わらずまっすぐ向き合っている姿勢は住民の心に響くだろうと感じた。警察（交番）が犯罪や事件を相談・解決する場所というだけではなく、子供たちの成長や高齢者の憩いの場であるということがとても新鮮であったし、さま



交番受付の本棚：登録すれば借りて良いらしい

ざまなイベントが定期的に行われており「いつも、あたりまえ」となっていることに驚いた。交番での柔術の指導者は自身が受けた恩を地域に還元したいとの想いから指導にあたっているとのことだった。(菊池)

● MAJOR ARCY 州立学校訪問、視察

同校で長く活動している今井恵美氏による説明の中で「やりたいと思ったら何でもできる」という一言が強く胸に響いた。自分自身もチャンスがあれば何にでも挑戦し、やりたいことがあればあきらめずにチャレンジする、またはその機会が訪れるよう努力するようになっているため大変勇気付けられた。また子どもたちにまっすぐに向き合っていることが伝わってきた。ブラジルの文化である「グラフィティ」について芸術としての側面は評価しながらも、他人の敷地や建物にも描くことについては正さなければいけない部分と言い切り、非常に公平公正でクリティカルな視点を持った人物だと感じた。教室には様々な国にルーツを持つ生徒達がいる、生徒達から質問を受け回答する際に、「日本人」「日本の先生」の意見として一般化してしまうのではないかと心配に思いながら対応した。(菊池)



公立中高のロッカー(この学校は校長の裁量で壁やロッカーにグラフィティを施すことが認められている)

5日目：8月8日 木

● イビエブラ公園、アフロブラジル博物館

イビエブラ公園では、ブラジルの広くゆったりとした空気を体感することができた。ほんの数日しか日本を離れていないのに、異国で出会った公園内の日本建築に心を動かされた。自分の「国」を離れることの意味をほんのわずかだが体感。アフロブラジル博物館では、偶然出会った小学生と交流でき、お互いに笑顔になれた。移民とはまた別の「奴隷」という歴史に、人間の業の深さを感じる。(小林)



アフリカ系ブラジル人の博物館を見学している現地の小学生たちと遭遇

● 移民資料館、帰国研修員との交流会

移民資料館では、実際の日系人の方にお話を伺うことができた。展示の資料と共に、その歴史を体感された方から臨場感のある話を聞くことは、深い理解につながることができ、現実感を伴った学びとなった。帰国研修員との交流会では、かつて日本で研修を受けていた方々が現在ブラジルで活躍され、また未来に希望を持っている姿に心が打たれた。私たちも、少しでもブラジルと日本の未来をつなぎたい。(小林)



移住資料館のガイドさんのお話は楽しく、感動的で、心揺さぶられました

6日目：8月9日 金

● サンパウロ州立移住博物館

サンパウロにおける移民の歴史を学ぶことができる施設で、かつては移民の宿舎であり、規模の大きさから小さな町のような機能を有している。ホームレスの人が寝泊まりするところも設置されている。ここでの滞在は最長1か月とされ、農場などの働き場所が決まると移住者はそこへ行ったという。

1930年代にナショナリズムが高揚した。背景には、ファシズムの影響を受けたヴァルガスが大統領の座についたことで、ナショナリズムが高まったという。案内役のスタッフの方に、当時と現在の移民の状況が類似しているように思うと伝え、当時の国策としての移民と、現在の難民は、文脈が異なり、より現代の移民・難民問題のほうが、問題が複雑だと話されていた。歴史を学ぶことでこうした思慮深く慎重に、冷静に物事を判断される姿勢に感銘を受けた。

展示に関して、ここの移住博物館はニュートラルな展示を心がけ、メッセージ性を強めないようにされているとのことだった。前日のアフロブラジル博物館で感じた「負の歴史」をここではあまり感じなかった。当時の移住者が寝ていた二段ベッドや実際に書いていた手紙をみて、ここに人々の生活があり、だれかを思い、将来への希望をもっていたことに勇気づけられた。

博物館のデザインにも感銘を受けた。明暗をはっきりさせ、視覚的に効果的な空間デザインが目をつけた。加えて緻密なデータを示していることがこの博物館の魅力だと思う。(芝)



自らも日系人というスタッフの方のお話に聞き入りました

● 中間ふりかえり会

これまで現地で書き出した付箋を整理して座標軸にまとめた。X軸は時間で過去、現在、未来とし、Y軸はポジティブ、ネガティブにした。このアクティビティはこれまでの学習を振り返り、今後の学習にとって大きな意味を持つと感じた。研修メンバー各々のこれまでの経験について、話せる範囲で最大限の話をしていたように思う。この深い議論ができたのは心理的安全性が非常に高まった現段階だからこそだと思う。(芝)

● あいのこ会との交流会



あいのこ会の皆さんと記念撮影

サンパウロにおける日本人、日系コミュニティのひとつであるあいのこ会の皆さんとの食事会、交流会で私のテーブルにいらしたIさん、Hさんとの懇談は有意義な時間だった。アイデンティティについての「自分はなに人か」を問われたときにIさんは、アルゼンチンとブラジルの対立があるからといってアルゼンチンのことを悪く言うブラジル人がいたらブラジル人と言わずに日本人と答えた

いという返答が印象的だった。H さんも同様の反応であった。親の国籍や自分のライフにおいて、どの時期にどの程度どこにいたかでもアイデンティティは異なる可能性があるし、「自分は自分」であり、だれかにカテゴライズされたくない、「地球に暮らす人」という世界市民的な返答も複数の方が述べていた。

多文化共生についてたずねた際に、I さんは「日本よりはブラジルの方が多文化共生社会は築きやすいように思う」と述べていた。私が多文化共生についてどう思うかを聞くと、「ルールの共有」が大事だという。I さんの経験で、マンションにI さんご家族の他にブラジル人ご家族が住んでおり、I さんご家族はゴミ出しのルールを確認し、それに従っているのに、他のブラジル人ご家族はルールがわからずゴミ出しをおこなっていた。それについてI さんご家族が間違ったゴミ出しをしているとかんちがいされて嫌な思いをした経験をお聞きした。こうしたルールの共有がなければ多文化共生は難しく、逆にルールの共有でお互いが気持ちよく暮らせる。メンバーの一人が大切にしているルールの意義を再確認する場面だった。あいのこ会という素晴らしい組織があり、交流を持てたことが嬉しかった。今後も活動が継続されることを望み、いつかあいのこ会みなさんが日本に来られるような機会があればぜひ日本でおもてなしをしたい。(芝)

7日目：8月10日 土

● サンパウロからベレンへの移動

早朝からの移動。日程も中間に差し掛かり、メンバーにも疲れがやや見えはじめた。

国内線でのフライトで3時間。ブラジルの広大さを感じた。到着の際にはアマゾン川が飛行機の窓から見えた。気温もサンパウロに比べて非常に高く、30度以上だった。(ベレンは一年中この気温)

移動の際にロストバゲッジが起こる。(田口)



ようやくあこがれのアマゾン川へ

● アマゾン川自然調査、協力隊員との食事

アマゾン川に到着。広大に広がる川がまるで海のように感じた。アマゾン川では植物の観察のツアーもあり、カシューやアサイー、カカオなど南国の植物についての観察や原住民の方との交流も図ることができた。

協力隊員との交流を通して、隊員それぞれの視点での多文化・共生について知ることができた。

個人的には料理人の小笠原さんの「アマゾンの豊富な食材を使った料理それぞれの良さを出そうと料理を作っていたが、プレートにそれぞれのせると次第に混ざっていってしまう。それが最初は嫌だったが、次第に一つの料理として調和していった。」という話が印象に残った。この国の料理もまた、このブラジルの多文化社会を象徴しているようだった。(田口)



「アマゾン料理」と称される料理をいただく

8日目：8月11日 日

● ベレンからトメアスーへ移動中および現地到着

ベレンからトメアスーまで、4時間ほどかけて移動した。道中、窓の外の景色が街から村、そして木々が生い茂る地帯を通り過ぎ、再び街へと移り変わる様子が見えた。トメアスーに近づくにつれ、鳥居や日本語表記のお店が増え、日本らしい雰囲気が多くなっていった。

また、規則正しく並んだ広大なパームヤシの畑が数多く見られた。ある1つの種類の植物が列を乱すことなく栽培されている様子は、とても管理的で少し不気味にも感じた。(長谷川)



ブラジルのこのような場所に鳥居があることに驚き

● ACTA 会長挨拶、資料館見学、ホームステイご家族の紹介後に各ホームステイ先へ

始めは胡椒が儲かるということで、栽培が広まった。その後、胡椒の病害が蔓延し、その反省からカカオやパッションフルーツなどの栽培も盛んになり、それが現在のアグロフォレストリーの始まりであると伺った。JICA 海外協力隊の林さんが資料館の整理をしていて、当時の器具や日用品などが分かりやすく展示されていた。

トメアスー文化農業振興協会の館内で見かけた本は、表紙に「歴史や文化、社会の出来事をおして、日本を分かりやすく理解するために」と書かれたうえで、日本語とポルトガル語で同じ記事が集録されていた。日系人といっても、日本語とポルトガル語の習得度合いは一人ひとり異なるため、繋がりのある日本のことを知るための一助になる本だと感じた。

ホームステイでお世話になった稲田家は、日系人の父アリソンさん、日本人の母ともえさん、その息子たいが君と娘あいちゃんの4人家族。子どもが小学生にあがる頃に日本からブラジルへ移住した。母はポルトガル語が話せないため、家族でちゃんとコミュニケーションがとれるようにと、家庭では日本語で会話をするルールになっていた。それも日本語学習の一部となり、子どもはN1を受験するほど日本語が堪能だった。夕食の時間は他の家庭の祖父母や子どもたちと共に、30名ほどで過ごした。まるで日本にいるかのように、日本語での会話が弾み、普段の生活している場所や環境は異なるものの、近い存在に感じた。(長谷川)



ホストファミリーとの記念写真

9日目：8月12日 月

● ACTA 日系学校、CAMTA ジュース工場

■ トメアスー日系学校

日系人の子どもたちとトメアスー市のコミュニティーのために構想され、設立された私立学校。小～高校が設置されている。はじめに日本語学校を訪問した。1929年からの歴史があるこの教室では、日系人が少人数ながら学習している教室を見学した。通っている児童・生徒のほとんどが自宅での生活言語がポルトガル語であり、日本語を話す家庭が少なくなっているという。中には日本語能力試験を受験して将来は日本で働くことを目指している人もいるという。日系学校では他の訪問先と同様、ルーツが様々な生徒が学習をしていた。日本語を話せる生徒は日本語学校に通うわずかな人数であったが、生徒のユニフォームには漢字で「日系」と書かれており、トメアスーの日系社会が変化しつつあること、時間をかけてブラジル社会になじんでいる様子を見て取ることができた。(村松)

■ トメアスー総合農業協同組合 CAMTA ジュース工場

日系人がブラジルで生活をするうえで農業生産にかかわる業務を助け合い、不利益を被ることのないように協力するために創設した農業組合と、そのジュース工場を見学させていただいた。JICAとは密接な関係にあり、助成金や専門員の派遣が行われている。現在の課題は気候変動（水不足、温暖化）、アグロフォレストリーの持続可能性だという。工場内では日系人だけではなく多くの人が働いていた。(村松)



日系学校の校章

● アグロフォレストリー農園見学

アグロフォレストリー（ひとつの土地に樹木と農作物を育てるなど、生態系に配慮したの農林業）を見学した。かつてこの地ではカカオや黒コショウなどの単一栽培がおこなわれていたが、土壌の疲弊や病害が起こった。持続可能な農林業の実現に向けて、複数栽培を管理している。実際の農園はコショウやバナナ、カシューにアサイーの木と、同じ空間にさまざまな種類の作物や木が計画的に植えられていた。拡大解釈かもしれないが、私たちの研修テーマである「多文化共生と移民」に近いものを感じた。単一栽培ではうまくいかないことでも、諸外国からコショウなどを輸入し、複数栽培をすることで農林業を持続させている点は、多文化が共生する強みを学んだような気がした。(村松)



農園にて参加者11名で記念撮影

10日目：8月13日 火

● トメアスーからベレンへ移動、在ベレン領事事務所表敬訪問

早朝にたくさんの感謝や思い出の詰まったトメアスーをあとにし、在ベレン領事事務所に表敬訪問を行った。坂本登三雄領事から見る、日本やブラジルの印象や、ブラジルのいいところ等を伺い、大変勉強になった。(矢島)



領事館での会談の様子

● 市場「ヴェロペーゾ」見学

午後には、ベレンの市場「ヴェロペーゾ」を見学し、お買い物した。午後にもかかわらず大勢の人でにぎわっており、とても活気のある市場だった。魚や肉、日用品など様々なものが売られていた。子どもたちに見せると約束していたピラルクの鱗やベレンの民芸品を買うことができた。市場の近くにはかつて砲台として使われていた場所や教会があり、ベレンの歴史にもふれることができた。(矢島)



市場で民芸品を吟味している参加者たち

11日目：8月14日 水

● サンパウロ市場、リベルダーデ散策

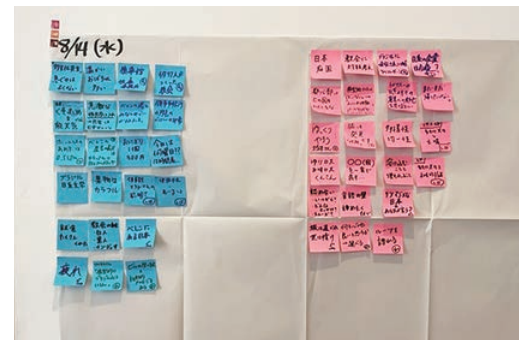
バスでリベルダーデの街を見て回った。街のアートが印象的だった。ブラジルに精通する JICA 同行者のお話を通して、また違った角度からブラジルについて知ることができてよかった。その場所で生きてきた「人」を通して知ることが多くある研修だった。立ち寄った市場は、同じ市場でもアマゾン・ベレンの市場とは雰囲気や客層が異なった。果物がカラフルで、イチゴをイチジクで包んで試食させてくれるお店もあった。ちょっとしたことではあるけれど、果物を果物で挟んで食べるということを日本では経験したことがないので、そのような違いに何かこの街らしさを感じた。(梁)



カラフルで印象的な市場のフルーツ売場

● 振り返り会

ファシリテーターの問いから話し合いがスタートし、これまで参加者メンバーの一人が特に関心を寄せていた社会における「ルール」の話や、「外」の人が「外から」他者を括ることはやはりよくないのではないかなど、様々に検討し合い、各々が心を揺らして考えられたことが印象深かった。「十人十色」ということばがあるが、この研修では「十一人十一色」の個性と視点で、受信できること、発信することが日々異なり、それぞれの色をお互いに大事にしながら、互いの色を混ぜ合って、新しい色を発見していけたと思っている。そのような学びを教室でも大切にしたい。(梁)



かなり整理されてきた付箋たち…

を与えてくださり、私たちに寄り添い支えてくださった JICA 横浜やメディア総合研究所の皆様、JICA ブラジル事務所の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいだ。多文化共生をどのように実現していくのか、ブラジルでの出会い・学びからたくさんのヒントを得ることができた。同時に、この2週間の出会い・学びは、自分の人生においてかけがえのないものとなった。日本に戻ったら必ず還元していきたい。(石田)



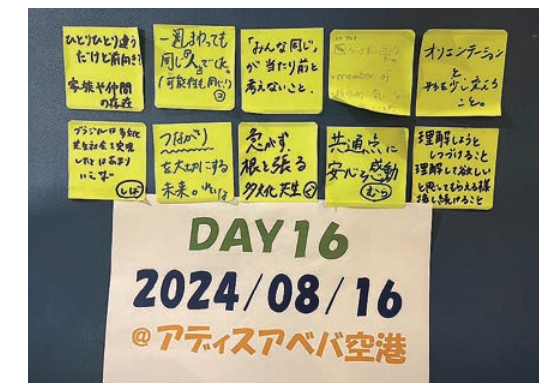
JICA 現地スタッフのみなさまと記念撮影

13日目：8月16日 金

● サンパウロから帰路へ

諸事情により、参加者10名での帰国となった。ファシリテーターや JICA スタッフのいない帰路は少し不安だったが、行きの反省を活かして時間に余裕を持って行動できるようみんなで声をかけあった（行きはファイナルコールをされるなどほぼ最終搭乗になっていた）。

アディスアベバ空港では、初日に設定した My テーマについて振り返りを行った。疲労が見える中ではあったが、自分なりの答えを一人一人が熱意を持って発表していた。(潮)



エチオピアのアディスアベバ空港にて振り返り会を実施

14日目：8月17日 土

● 羽田空港到着

諸事情により、全員での帰国が出来なかったことや到着時間が予定より遅れたことで終電がギリギリになってしまったことが理由で解散時の集合写真は撮れず、ヘトヘトのまま流れ解散…

8月24日の事後研修に全員笑顔で集まりますように！

1・2・3・Vamos!! (押田)

12日目：8月15日 木

● サンパウロ市内活動ボランティアの活動説明と意見交換会

サンパウロ市内で活動されているボランティアの方のお話を聞いた。地域で剣道やソフトボールの普及、学校で幼児や小学生に日本文化の普及を行っている。皆さんそれぞれ、試行錯誤をしながら熱心に活動されていることが伝わってきた。特に、「文化の押し付けにならないようにしている」という言葉が印象に残った。相手が何を求めているのかを見極め、譲るところと譲らないところに折り合いをつけていくことの大切さを学んだ。意見交換会では、日本に戻ったら伝えたいこととして「世界は広いこと」「決めつけないこと」「一人ひとり違うこと」「他者を知ろうとすること」を挙げていた。私たちが日々振り返りをする中で出てきた内容だったので、背中を押された気持ちになった。(石田)



意見交換会の後、別室に移動してさらにお話をしました

● JICA ブラジル事務所にて研修報告会

私たちの研修の集大成として、ブラジルで学んだことを報告させていただいた。はじめに、団長がみんなの想いを汲みながら挨拶と報告をした。それから一人ひとり報告をした。話を聞きながら、2週間の思い出、胸がいっぱいになった。このような学びの機会



2024年度教師海外研修参加者〔撮影：2024年教師海外研修事務局〕

実践授業報告

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。

※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。



HIKARI USHIO

実践者	氏名	潮 ひかり	学校名	神奈川県 綾瀬市立天台小学校
	担当教科等	国際教室担当	対象学年(人数)	4年3組(27名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年11月15日(1時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

道徳科

(主 題 名) よい友だちになるために
(内容項目) 友情、信頼

【3】本時の授業タイトル

「ブラジルからの転入生」

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

外国にルーツのある児童が各クラスに数名ずつ在籍している。内容項目について考えを深めるだけでなく、外国籍児童がルーツのある国について考えを深めたり、クラスメイトが外国籍児童のことを改めて知ろうとしたりするきっかけになってほしい。思い込みや見た目で決めつけず、自分の目で見て耳で聞いて、相手を知ることが大切であることを伝えたい。

【評価基準】

一面的な価値観で物事を判断し決めつけてしまっていることはないか、友だちと関わるときに考え方や言動を振り返ることができる。また外国に対する見方・考え方についても考えさせ、教材や教師のブラジルでの体験談を聞いて、自分が大切にしたい考え方や振る舞いを考えることができる。

【5】単元計画(全1時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1		初めて出会うものや人と関わるときに、大切なことを考えよう。	道徳教材に出てくる登場人物の心情を捉え、内容項目について考える。その後、教師のブラジルでの体験談を聞き、ブラジルの様子を疑似体験することで外国に対する見方・考え方についても考えを深め、自分が大切にしたいことは何かをノートにまとめる。	

【6】本時の展開

本時のねらい 初めて出会うものや人と関わるときに、大切なことを考えよう。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	1. 本時の主題に関わる問題意識をもつ。 ○友だちになるときに大切なことは何ですか。 ・やさしくする ・自己紹介をする ・自分から○○する	・友達になるときに大切なことを自由に発言させ、キーワードを板書する。	「ブラジルから来た転入生」(光文書院「ゆたかな心 4年」)
展開 (30分)	2. 課題をつかみ、教材の範読をする。 ○初めて出会った人と友だちになる時にどんなことに気が付いたら良いのでしょうか。 3. 登場人物の心情を捉える。 ◎どんな理由からセルシオ君はサッカーが上手だと思ったのだろう。 ・ブラジルから来たから ・ブラジルはサッカーが強いから ○ひろし君はどんなことに気づいたのだろう。 ○初めて出会った人と友だちになる時にどんなことに気が付いたら良いのだろう。 4. 教師のブラジルでの体験談を聞く。 ①空港、飛行機の中で出会った外国人に英語で話しかけたら… ②ブラジルで食べられるものは… ③ブラジル料理「フェイジョアード」はどんな味… ④ブラジルに暮らしている人々は 何語を話すのだろう…	・セルシオ君に関する事実とクラスメイトの思い込みを分けて捉えられるようにおさえる。 ・ひろし君が自分の思い込みに気づけなかった場合どうなるか想像させる。	
まとめ (5分)	5. 本時の学習について振り返る。 ○初めて出会うものや人と関わるときに、大切なことについて振り返り、ノートを書く。	・教材や教師の話から、大切だと思ったことや今後の生活について考えられるようにする。	

【7】実践を終えて(成果、課題など)

授業の最初に考えさせたい内容を全体で共有してからブラジルでの体験談を話す事ができたことが良かった。英語が全てではないことや決めつけは良くない、時間をかけて相手を知ることが大切。積極的に話しかけることも良いかもしれないが、相手の反応を見ながらコミュニケーションを取ることが大切。という意見が児童から聞かれた。また相手を知るためにはどうしたら良いかという

意見もあり、私が目標としていたことのさらに先まで考えを深めている児童もいた。教師の実体験を通した語りは児童の食いつきが違う。私自身が熱量を込めて語れるということもあるが、児童がブラジルの様子を教師の語りから疑似体験することで自身の考えや思いを積極的に発言することができたのではないと思う。授業後、4年生の遠足に同行した際に外国人観光客に出会った。「挨拶してみたら？ ハローと話しかけてみたら？」と児童に促すと、外国人観光客から「オラ」という返答がきた。「先生、また見た目で判断しちゃった…、英語ではなかったね」と言うと、「見た目で判断しちゃいけないだよ、『こんにちは』も通じたよ」と児童が教えてくれた。授業した内容を児童なりに捉え、新たな考え方を身につけることができていたことが嬉しかった。

【8】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

教材について考える場面でも、教師のブラジルの体験談を聞く場面でも児童の積極的な発言や反応が見られた。ブラジルでの体験談では、写真やイラストを使ってクイズ形式で進めた。日本語の理解が難しい外国籍児童も、イラストを通して内容を理解し授業に参加することができた。教師の失敗談や食べ物に関することに対して大変興味を示し、良いリアクションが見られた。ブラジルにルーツのある児童が普段は話さないポルトガル語を披露したり、ベトナムにルーツのある児童からは自国のことについて語りたいという様子が見られたり、自分のルーツについて前向きに考えるきっかけになったのではないかという様子があった。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

ブラジル研修報告書を学校職員向けに作成し配付した。外国籍児童が多く在籍する本校において外国籍保護者・児童と関わる際に知っておくといふことや外国の教育事情などをまとめ、報告した。また、児童に向けて日本とブラジルの相違点を見つけさせる掲示を作成し、教室前に掲示した。

「国際理解」をテーマとした5年生総合的な学習の時間において、市内に居住経験のある外国人にインタビューをする機会を設けた。5年生担任と外国人の方を繋ぐコーディネータとして、あやせ国際友好協会に協力をいただきながら外国人の方と連絡を取り合った。外国人を授業に招き、生活の中で困ったことや大変なこと、嬉しかったことなどを実際に聞くことができた。

PTA 主催のイベントにて、外国に関するブースを設置し運営することができた。アラビア語でのネームタグ作りやボディペイントなどを行った。あやせ国際友好協会と PTA 役員、外国籍保護者と連絡を取り合い、実施することができた。当日はインドネシアとベトナム出身の保護者、スリランカ出身のボランティアの方が手伝いに来てくれた。互いの国の言語や習慣について話したり、一緒に活動したりすることで新たな繋がりを作ることができた。日本人保護者にとっても我々教員にとっても有意義な時間となった。また、子どもたちにとっても外国語に触れたり、異文化に触れたりする機会となった。

全学年の国際教室通級児童を対象に日本の正月遊びを体験する授業を1月に設定した。日本文化を学ぶとともに、異学年間の交流し、同じルーツを持つ人や同じ言語を話す人が校内に在籍していることを知る機会となった。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

国際教室担当者として、地域の日本語教室へ学期ごとに訪問している。日本語指導員の方と情報交換を行ったり、国際教室通室児童の様子などを伺ったりしている。国際教室へ通室している児童と保護者に対して、市内の日本語教室を紹介し活用できるよう案内している。

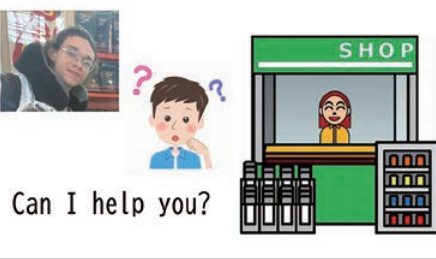
綾瀬市内にある「あやせ国際友好協会」に所属し、市内の国際交流イベントに参加している。イベントで出会った外国人の方と積極的にコミュニケーションをとり、9. に記載した5年生の総合の学習のインタビューを設定することができた。また、ムスリムの方との交流から、イスラム教について知ることができ、校内のムスリムの児童や保護者と関わる際に以前よりも相手理解に努めることができたと感じる。2025年2月に行われたあやせ国際フェスティバルの運営にも携わった。

国際理解につながる研修会やイベントに足を運んでいる。本年度は、本研修で訪問したABCジャパンの群馬県の活動拠点を訪問したり、多文化共生をテーマとした「あーすフェスタかながわ」へ参加したりした。日本語指導の仕方や綾瀬市外の日本で暮らす外国人に対する取り組みを学び、国際教室での指導に活かしている。

【11】今後、続けていく活動について

国際教室担当者として、市内の日本語教室の訪問や市内外の研修会、国際イベントへの参加は継続していきたい。学校外での児童の様子や日本語指導方法を学び、より良い指導と外国籍保護者・児童とのよりよい関わりに努めたい。

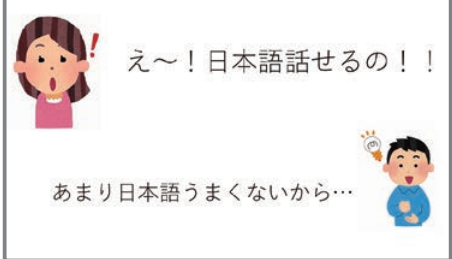
また、PTA 主催のイベントにおける外国に関するブースの設置や外国籍保護者への協力依頼は継続していけそうである。運営者からも参加者からも前向きな意見が聞かれ、来年度は出展内容をブラッシュアップし、多くの外国籍保護者にも参加してもらえるよう働きかけを行いたい。



Can I help you?

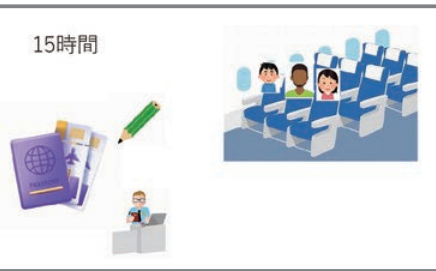


日本人ですか？



え～！日本語話せるの！！
あまり日本語うまくないから…

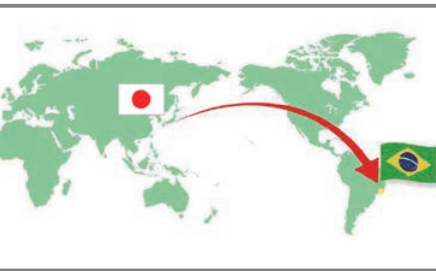
15時間







ブラジル





日本の大きさの約2.3倍

フェイジョアーダ



どんな味がするのだろう…





なに屋さんでしょう？



① ハンバーガー ② そば ③ スパゲッティ



正しい ② そば





ESPACO KAZU

ブラジルの家におとまりをしました。



パーティーにできたごはんは？



パーティーにできたごはんは？



正しい おにぎり





なにを話す？



なにを話すのでしょうか？



日系人



•はじめましての人(ひと)やものに 出会ったとき、
どんなことを大切(たいせつ)にしたい
ですか？



RYOHEI KOBAYASHI

実践者	氏名	小林 良平	学校名	神奈川県 茅ヶ崎市立浜須賀小学校
	担当教科等	小学校全科 4年生担任	対象学年(人数)	4年 1組(33名)
	実践年月日もしくは期間(時数)		2024年7月～12月(12時間)	

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

総合的な学習

国際まつり

【3】本時の授業タイトル

みんなに考えてもらいたいこと

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

国際理解を通して、他国を「知る」だけでなく、視野を広げ、多角的に物事が見れるようになることをねらいとし、その達成を評価したい。

【5】単元計画(全 時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	ブラジルについて調べよう	海外に興味を持つ	ブラジルについての調べ学習を行う。	
2	調べる国を広げ、学習したことを伝えよう	興味をさらに広げ、知ったことだけでなく、学んだ視点などを効果的に伝える	調べる国を6か国に広げ(実際に教職員がこの夏休みに渡航した国)、調べるだけでなく、広がった視野などを効果的に伝える。	
3 本時	みんなに考えてもらいたいこと	広げられた視野について、クラスの仲間と共有し、日常の視点として生かす	これまでの学びから得た、視点を生かし、クラスの仲間と対話的に学びを深める。	作成 パワー ポイント
4	学年国際理解教育	活動の定着	学年の先生が過去にいった、他国について学年一斉で学ぶ。	作成 パワー ポイント

【6】本時の展開

本時のねらい 資料から想像を広げ、様々な視点から日常を見直し、考えを深める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
	2枚の図から想像されることを話し合う 2枚の図を比較する視点を出し合い、対話する。 2枚の図の中に、「もし自分がいたら」という視点から、図を考えてみる。 感想の交流	「子ども自らが学びたい」という視点を大切にする。 (できるだけこちらで設定しない)	作成した図 パワーポイントによる提示 具体的な学校生活の写真

【7】実践を終えて(成果、課題など)

子どもたちの豊かな対話に、これまでの成果を感じた。課題は、実際のところ学校生活がどれだけ「多文化共生」的であるか、子どもたちともしっかり考えたい。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

子どもたちは「国際理解教育」が大好きになりました。また「発信」することに強い興味を持っている子もできましたし、「人権感覚」も鋭くなりました。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

海外旅行に行った先生がたくさんいたので、まず巻き込みました。さらに学年全体でも取り組もうとなり、さらに給食にブラジル料理まで出してもらえました。教育的意義とか指導計画云々でなく、「なんかおもしろそうだから、いっしょにやっちゃいましょう」というフットワークの軽さが大切だと思います。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

浜須賀会館祭りという公民館祭りに、作ったポスターなどを展示してもらうことなどが考えられると思います。

【11】今後、続けていく活動について

とにかく「大人も子どもも楽しいこと」これにつきますと思います。そしてそれを日常に生かせること。具体的には、国際調べるなことをクラスの総合的な学習で、続けられると思いますし、地味にも派手にも発信して楽しみたいです。そこから得た視点から、子どもと共に学校を見直して、「多文化共生的な」学校づくりを続けていきたいですね。

「国際まつり」がんばったね！

そんなみんなに、今日は
考えてほしいことが...

松モデル 竹モデル

問1：どんなことがイメージされる？

松モデル 竹モデル

問1：どんなことがイメージされる？

松モデル 竹モデル

問1：どんなことがイメージされる？

松モデル

竹モデル

問1：さて、モデルから、
どんな想像？
どんなイメージ？

松モデル 竹モデル

問1：どんなことが想像、イメージされる？

松モデル 竹モデル

問1：どんなことがイメージされる？

松モデル 竹モデル

問2：どっちが ？

じゃあ みんなの「学校」は？

松モデル

竹モデル

問2：どっちが ？

松モデル

竹モデル

問3：自分が「」だったら、と考えると、
どんなことを想像しますか？

松モデル

竹モデル

自分が「」だったら、と考えると、
どんなことを想像しますか？

松モデル

竹モデル

自分が「」だったら、と考えると、
どんなことを想像しますか？

新华网
XINHUANET.COM

© Shutterstock

今日の授業は、答えなし。

ものの見方＝視点 考え方

のプレゼントです！



SHOMA TAGUCHI

実践者	氏名	田口 翔万	学校名	神奈川県 川崎市立稗原小学校
	担当教科等	全科	対象学年(人数)	6年3組(27名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年12月9～ 月(1時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

道徳

東京オリンピック 国旗に込められた思い

【3】本時の授業タイトル

「東京オリンピック 国旗に込められた思い」から学ぶ国際理解

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

6年生になり、外国語活動や日常生活の中で日本以外の国や文化について知ることも多くあった。だが、その国の成り立ちや歴史的背景、国のアイデンティティや誇りについての視点をもって日本以外の国を見ることがはまだまだ考えられていない。今回の学習を通して、より深い視点で国際理解や国際親善について理解することを目標にしたい。

【5】単元計画(全 時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1				
2 本時	東京オリンピック 国旗に込められた 思い	東京オリンピックの 国旗担当をしていた 吹浦さんの生き方を 通して、相手の国につ いての理解を深める	- 吹浦さんはなぜ4回も国旗を作り 直すことになったのかな？ - 相手の国を尊重することとは どういうことか考えよう。	アンビリーバボー 東京オリンピック を作った男たち 東京オリンピック 国旗に込められた 思い(日本文教)
3				
4				

【6】本時の展開(時間)

本時のねらい 東京オリンピックの国旗担当をしていた吹浦さんの生き方を通して、相手の国を尊重する態度を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (分)	1. JICA 横浜ブラジルの動画を視聴する。	・今回の学習が世界の国 についての学習である ことを意識する。	JICA 横浜 「ブラジルってどんな 国？」の動画
展開 (分)	2. ブラジルの国旗の意味。日本の国旗の意味。 アイルランドの国旗の意味について説明する		
まとめ (分)	3. 吹浦さんについて紹介し、動画を視聴する。 4. 東京オリンピック国旗に込められた思いを読み 聞かせる。 5. 国際理解、国際親善について考えを書く。 6. 意見交流。	・動画を活用し、吹浦さ んの生き方をイメージ しやすいようにする。 ・動画だけではなく文章 でも読み聞かせること で、改めて吹浦さんに注 目させる。	アンビリーバボー 東京オリンピック特集 東京オリンピック国旗 に込められた思い (『道徳6年生生きる力 日文社』)

【7】実践を終えて(成果、課題など)

子どもたちが意欲的に取り組むにはどうしたらよいかということを意識して取り組んだ。そのために活用したのが動画教材である。動画教材を用いることによって、その人物についてドラマ感覚でまなべることで、より人物の気持ちを読み取ることができるようにした。結果として、子どもたちは動画を意欲的に見ていた。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

相手の国を知ることの大切さについての考えさせるようにした。これからの社会に必要力や自分自身に置き換えて主体的に考えることをしている児童も感想から多く読み取れた。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

職員会議の時間を使って、簡単にまとめたスライドを発表したり、学年会議で話題にし、子どもに身につけさせたい知識を考えたりした。現在、川崎市も外国にルーツのある児童も増えてきている。そのことから意欲的に学ぼうとする先生方も多くいた。

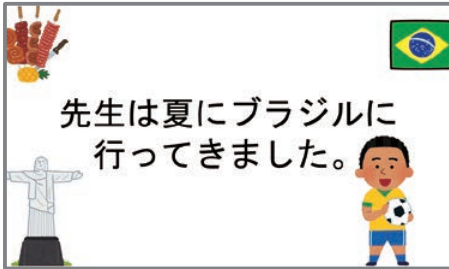
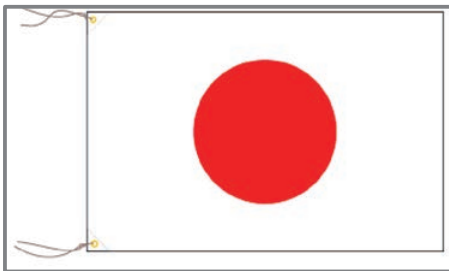
【10】学校外で国際理解教育を広める取組

ブラジル研修で経験してきたこと。そこから学んだこと。撮影した資料等を使い、動画を制作し、共有できるようにした。1分程度の動画で、JICA 横浜のメンバーはもちろんその勤務校の先生方も使いやすいようにシンプルなものを作成した。視覚的にイメージしやすいことに加えて、見せるだけでも十分に活用することができる。実際に使っていただいている先生方からも分かりやすいと多くのコメントをいただいた。

【11】今後、続けていく活動について

今年度学んだことを活かし、総合の学習もしくは6年生の社会科の学習で国際の単元を作成したいと考えている。今年度は3年生が総合の学習で国際の単元に取り組んでいた。その単元の計画にブラジルでの資料を加え単元計画を作り直すことで自分だけではなく、他の職員も使いやすいように工夫したい。

参考資料：授業で使用したパワーポイント

	ところでこの国旗は知っていますか？ 	ブラジルの国旗 意味 ・星は州の数 ・地球儀の帯には秩序と進歩 ・緑は森林資源 ・黄色は鉱物
	この国旗は アイルランドの国旗です。	国旗の意味 ・緑はカトリック教徒 ・オレンジはプロテスタント（新教徒） ・白は平和と友情
	この国旗の意味 ・丸は太陽 ・赤は博愛と活力 ・神聖と純潔 ・紅白は日本の伝統色	今から、60年前 1964年 

この年は・・・ 	1964年のオリンピックの国旗の責任者 ・吹浦忠政さん ・国旗博士（10代で国旗の本をだすほど） ・日本の東京オリンピックの国旗の責任者 ・オリンピックの国旗全てを任されている ・当時20歳の大学生	
当時はインターネットもない中、一つずつ調べサンプルを作り送っていた。 国旗博士の吹浦さんの作ったサンプルですら、アイルランドはそのサンプルを「間違っています。」と断り続けること合計7回 さて、その理由は？ 	答えは・・・ 緑の色が、この緑ではない・・・ 	では、詳細の動画へ
他国の文化や伝統を理解するにはどのような気持ちを持つことが大切なのだろうか？	ブラジルに行って学んだこと・・・ 	でも実際は・・・ サッカーが好きな人もいれば、あまり好きではない人もいる。カーニバルが好きな人もいればそうでない人もいる。 白人もいればアフリカ系、アジア系（先祖が日本人）の人もいる。 改めて学ぶことで考えが180度変わりました。 



MISAKO YAJIMA

実践者	氏名	矢島 美沙子	学校名	神奈川県 横浜市立南吉田学校
	担当教科等	国、算、体、学、道、総	対象学年(人数)	4年3組(31名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年10月～11月(2時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

道徳

みんなちがってみんないい・・・？
お互いに生活しやすい環境を作るには。

【3】本時の授業タイトル

友達が考えていることは自分といっしょなのだろうか？

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

外国につながる児童が非常に多い学校ではあるが、それを意識しながら生活している児童は少ない。また相手のことを考えて行動するというよりは、自分のことを中心に考えて生活している児童が多く、考えの違いによって喧嘩が起こることも少なくない。そのため、自分の周りにいる人たちは一人一人違う人間であり、自分の考えがすべてなのではなく、互いに理解し合おうとする姿勢が大切であるということを伝えたいと考え、本単元を設定した。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1		運動会を振り返り、南吉田小学校ならではの取り組みについて知り、なぜそれが行われているのかについて考えることを通して、今の生活を振り返る。	- 今回行われた南吉田小学校のMYキッズスポーツフェスティバルについて振り返る。 - 南吉田小学校ならではの取り組みについて知る。 - なぜその取り組みが行われているのかを考える。 - いろんな国につながる友達が南吉田小学校には多いことに気づき、この学校での生活のよさや課題について振り返る。	

2 本時		「部屋の四隅」という活動を通して、自分と同じ考えをもつひとは誰一人いないことを認識したり、異なる考え方でもそれを尊重することの大切さを感じたりすることができる。	- 教師がブラジルで出会った人(多くの日本人とは考え方が異なる人々)について知る。 「部屋の四隅」というワークを体験し、自分の考えや好きなものが他人とは異なることを知ったり、異なる意見についてどう扱っていけばよいかを考えたりする。 - ワークの振り返りを行い、生活の中でどんなことを意識していけばよいかを考える。	部屋の四隅
---------	--	--	--	---

【6】本時の展開(2時間)

本時のねらい 周囲にいる人たちが好きなものや考え方が異なっていることを知り、お互いのことを知ろうとしたり、お互いのことを認め合ったりすることができるようになる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
事前	○人と違って困ったことや良かったことがあるか自身の生活を振り返るアンケートに答える。		
導入 (15分)	○前回の授業で考えたことを思い出す。 ○ブラジルで出会った人々について聴く。 ①「自分のことが好きだ。同じように友達のことも好きだ。」と答えていた子どもたち、(ブラジルの人は誕生日を盛大に祝っているエピソードも伝える) ②自分のルーツについて堂々と語ることでできる日系人 ③「自分は〇〇人。同じ人は？」クラスで聞き、自信をもって手を挙げる子どもたち	あくまでも教師自身の体験として話し、それがすべてのブラジル人に当てはまらないこともあるということを話しておく。	
展開 (20分)	☆「ブラジルと日本は一緒？違う？」 ☆「では国が違うから考え方が違うのかな？」 ○「部屋の四隅」を通して、お互いの好きなものや考え方が異なることを知る。	日本と中国で異なる点を意図的に回答の中に入れ、自分の考えがすべてではないということを知ることができるようにする。また、自身の文化や慣習を話せる場を作る。	
まとめ (10分)	○質問ゲームを通して考えたことを振り返りに記入し、共有する。	ロイロノートで記入して共有しやすくする。	

【 7 】 実践を終えて（成果、課題など）

- 授業を通して、人は自分とは異なる考え方をされていて、「みんな一緒になければいけない」「人に合わせなければいけない」という考え方について問い直すことができている児童がいた。
- 実際の生活にすぐに生かしていくことは難しいなと感じたので、一度だけでなく、継続して伝えていくことが大切であると考えた。

【 8 】 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

- 振り返りには、「自分では当たり前のことが他の人は当たり前ではない」、「自分が思ったことと友達が思ったことが違うことや友達が考えていることが分かっておもしろかった」など書いている児童が多くおり、他者との違いに気が付いた上でそれを受け入れることの大切さに気付くことができていた。
- また少数意見について「これは意見を変えるべきなのか？」と問うと、「自分の意見なのだから大切にしたい」という言葉が子どもたちから自然と出てきた。

【 9 】 学校内で国際理解教育を広める取組

- 廊下にブラジルクイズ（日本とブラジルの文化や慣習の違いがわかるもの）を掲示した。
- メンターチームの研修でブラジルでの体験、開発教育で行われるアクティビティの体験を行う。

【 10 】 学校外で国際理解教育を広める取組

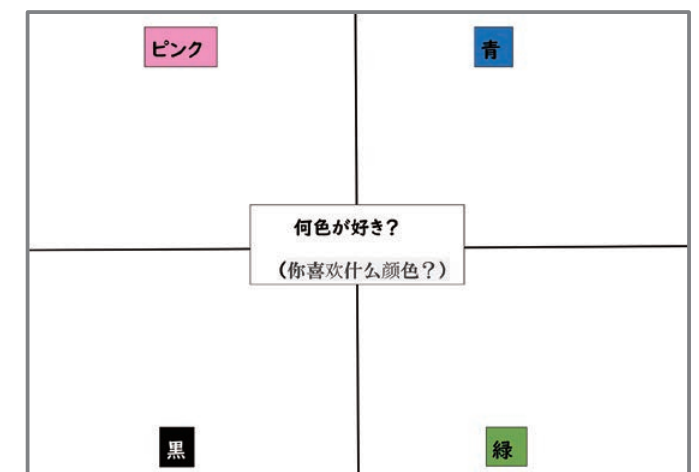
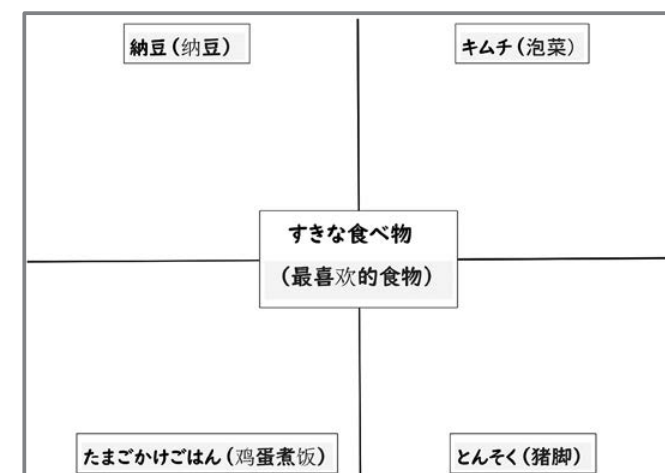
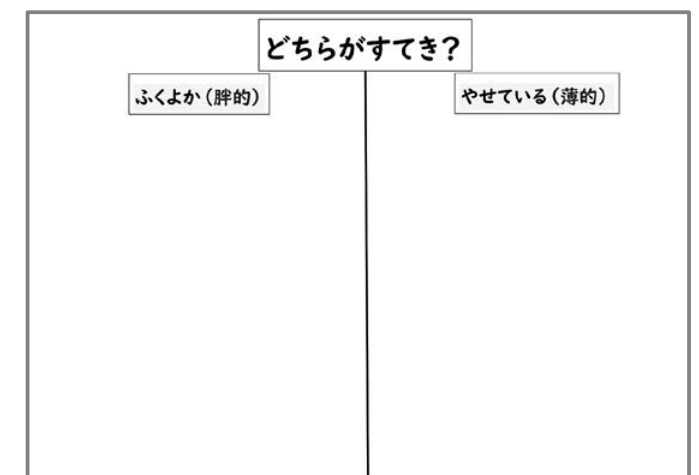
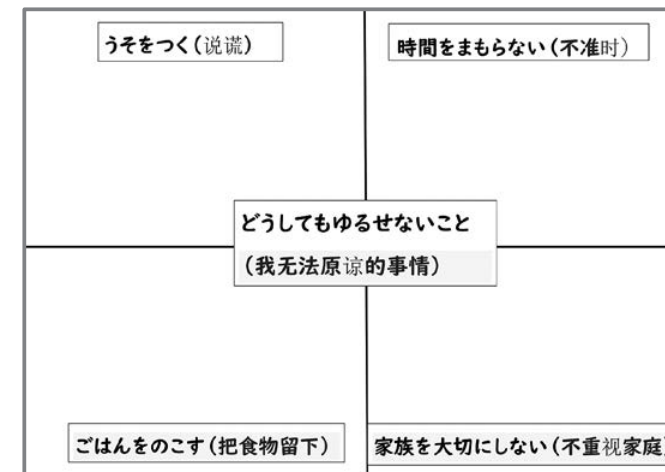
現在のところ特になし

【 11 】 今後、続けていく活動について

- 担当する学級でブラジルでの経験をもとにした授業を行う。人との違いについて気づける授業を行う。

参考資料：

- 「部屋の四隅」DEAR開発教育協会 <https://www.dear.or.jp/activity/1722/>
- 黒板に掲示した資料





REINA ISHIDA

実践者	氏名	石田 礼奈	学校名	神奈川県 横須賀市立長沢中学校
	担当教科等	外国語(英語)	対象学年(人数)	2年1〜3組(105名)
	実践年月日もしくは期間(時数)		2024年9月〜10月(9時間)	

【実践概要】

【1】実践した教科外国語(英語)

【2】単元(活動)名

Unit 4 Homestay in the United States (NEW HORIZON 2)
【単元目標】日本や学校の慣習について、外国で暮らす人が来日した際に困らないように、紹介することができるようになる。

【3】本時の授業タイトル

長沢中の一日を伝えよう。

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

多文化共生の実現に向けて、生徒の価値観を揺さぶり、態度を育むためには、継続した指導が必要だと考えました。単元全体と国際理解教育・開発教育を融合させ、9時間扱いで一貫した指導を行います。評価では、「日本や学校の慣習について伝えるために、日本と外国(対象相手の暮らす場所)を比較したり、相手に必要な情報を示したりしながら、まとまった内容を伝えようとする」姿を見取ります。

【5】単元計画(全9時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	新出文法の理解	動名詞を用いて、わくわくすることを伝えることができるようになる。	言語活動 ・ブラジルの交番を題材に、地域の方々が楽しんでいることについて新出文法で英文を作る。 ・なぜ交番でこれらのイベントが行われているのか考える。	※ヴィラ・ドス・レメディオス交番

2	新出文法の理解	have toを用いて、アドバイスをすることができるようになる。	導入・練習 ・ブラジルの学校生活を題材に、違いを扱いながら、新出文法に慣れる。 言語活動 ・日本の学校生活(教科)について、アドバイスするための英文を作る。	※ECCOS学園、MAJOR ARCY 州立学校
3	新出文法の理解	mustを用いて、ルールを伝えることができるようになる。	導入・練習 ・ブラジルで見つけた学校生活に関するルールの掲示物や、水道事情を題材に、新出文法に慣れる。 言語活動 ・日本の各施設について、ルールを伝えるための英文を作る。	※ECCOS学園、水道事情(トイレ、飲料水)
4	教科書本文の読解	ホームステイのアドバイス(教科書本文)について読み取ることができるようになる。	言語活動 ・ホームステイのアドバイス(教科書本文)について読み取る。 ・ヒベリーニョの生活について考える。	※ヒベリーニョの生活
5	教科書本文の読解	ホームステイ先のルール(教科書本文)について読み取ることができるようになる。	言語活動 ・ホームステイ先のルール(教科書本文)について読み取る。	
6 本時	まとめ①	長沢中の一日について伝えることができるようになる。	※本時の展開参照	※トメアスーのホームステイ、高校生招へいプログラム
7	教科書本文の読解	ホームステイ先での困りごと(教科書本文)について読み取ることができるようになる。	言語活動 ・ホームステイ先での困りごと(教科書本文)について読み取る。	
8	教科書本文の読解	ホームステイで大切にすること(教科書本文)について読み取ることができるようになる。	言語活動 ・ホームステイで大切にすること(教科書本文)について読み取る。	
9	まとめ②	外国人観光客にルールやマナーを伝えることができるようになる。	言語活動 ・横須賀市の温泉や美術館、駅における困りごとを解決するために、貼り紙の原稿を作る。	

【6】本時の展開(6時間目)

本時のねらい

教科担任のホームステイ先の中学生に向けて、既習の言語材料を使い、長沢中学校の一日について、相手が必要な情報を考えながら説明することができる。

揺さぶりたい価値観

普段、人と関わるときに、知っているつもりになり、自分の価値観や基準で物事を見てしまっていることに気付かせる。知ろうとしたり、相手の立場を想像したりする態度を育む。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 1.本時の確認 2.Oral Interaction (10分)	- 教科リーダーが本時の問・課題・まとめの書き出しを確認する。 - 問：長沢中の一日を伝えよう - 教科担任のホームステイ先を予想する。 - Question 1：What was the house like? Let's draw pictures. - Question 2：What did Ms. Ishida have for dinner? - Q 1・2を共有する。 - 答え合わせ - Question 3：What do you feel? - Q 3を共有する。	実際の写真を見せる。	写真：ホームステイ先の家・アグロフォレストリー・夕飯（日本食）
展開 3.Listening Activity	- ホームステイ先からのメッセージを聞き取る。 - Message 1：自己紹介（英語） - Message 2：自己紹介（日本語） - どんな人か予想する - 日系について知る - Message 3：抱負（英語）	- 写真を見せる 『高校生招へいプログラム』を紹介し、横須賀にも来ていた事実を伝え、身近に感じてもらう。	写真：ホストファミリー・ブラジル日本移民資料館・高校生招へいプログラム
4.Writing Activity (35分)	- 長沢中の一日に関するガイドブックを作る。 8つのテーマ（持ち物・登校・休み時間・給食・掃除・SHR・日直・教科係）を学習班ごとに分担する。 - 相手が必要な情報を英語で書き出す。 - 他の班を回り新しい視点を共有する。	「相手が必要な情報は何か」問いかける。	

まとめ 5.本時のまとめ ・振り返り (5分)	本時のまとめと振り返りを記入する。		
---	---	--	--

【7】実践を終えて(成果、課題など)

単元の前半において、新出文法事項を学びながら、日本とブラジルの文化や学校生活、暮らしの違いに出会いました。その中で、自分たちの当たり前が他の人にとっては当たり前ではないことや、自分たちの生活を基準に他の暮らしの利便性を決めつけてしまっていたことなどに気付く場面がありました。しかし、それでもなお、今回の授業において、ホームステイ先の予想やメッセージの聞き取りの際、無意識に外国人像を決めつけてしまっていました。このように、私たちはつい分かったつもりになってしまうということに気付き、だからこそ相手を知ろうとすることや想像することを大切にしてほしいと考えています。これからも生徒たちの価値観を何度も揺さぶり、継続した指導をしていきたいです。

なお、作成したガイドブックは、各クラスの教科リーダーが表紙と目次を作り、ホームステイ先へ送りました。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

ホームステイ先を予想する際、「川の上に家がある」「豆料理」「魚料理」という声がありました。写真を見せていくと、「敷地が広すぎる」「日本の料理で気遣ってくれてる」という声が出ました。メッセージでは、「名前が日本人っぽい」「なんで日本語が分かるの?」といった戸惑いが見られました。ガイドブック作りでは、取り組み始めた際に、「しっかりやる」のように主観的な内容が見られたので、相手が必要な情報は何だろうと全体に問いかけました。その後、生徒手帳を取り出してルールを探したり、「食べる前にみんなでいただきますって言うよね」のような話し合いをしたり、内容について相手意識で考える姿が見られるようになりました。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

校内の先生方に向けて、報告会を行いました。見方を変える簡単な体験（ワーク）を交えながら、ブラジルで学んだことの紹介や、長沢中学校としてできることの提案をしました。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

①市内の英語科の先生方に向けて、報告会を行う予定です。見方を変える簡単な体験（ワーク）を交えながら、ブラジルで学んだことの紹介や、国際理解教育・開発教育を融合させた単元計画および授業実践の提案を企画中です。

②地域の無料塾において、生徒たちや講師、保護者、地域の方々に向けて講演をしました。そこでは、『多文化共生ワーク』の実施や、ブラジルで学んだことの紹介をしました。また、講演後に、講師や地域の方々とともに、多文化共生について話し合いました。

【 11 】 今後、続けていく活動について

国際理解教育・開発教育において育む生徒の態度は、多様な他者と共に生きていく上で普遍的なものになると考えています。そのため、どの地域の生徒であっても、どの校種・教科の先生であっても取り組めるものを提案していきたいです。学級開きや長期休業明けなどの時期において、学活や道徳で生徒同士の交流を促すために『多文化共生ワーク』を行ったり、SHR で担任が話すネタの一つに多文化共生の話題を扱ったりすることができるようにしていきたいです。

参考資料：
授業で使ったパワーポイント

Unit 4 Lesson 6

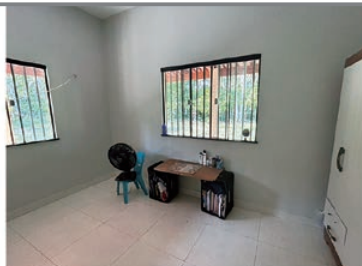
⑩ 長沢中の一日を伝えよう。

STEP 1

Q1. What was the house like?
Let's draw pictures !!

Q2. What did Ms. Ishida have
for dinner?

A: Tell me your idea.
B: Sure. This is ~.
How about you?
A: This is ~.
B: Thank you.



Q3. What do you feel?

STEP 2

Message 1

Hello.
I'm Inada Aira.
I'm twelve years old.
I like volleyball.

Message 2

こんにちは。
わたしは、いなだあいらです。
12才です。
バレーボールが好きです。



NIKKEI 日系



Message 3

I'm studying Japanese.
I want to go to Japan someday.
I'm interested in school life in Japan.
Please tell me your school.



2023年度日系社会文化継承研修
(高校生向けプログラム)

プログラム	内容
修学学習	海外修学旅行経験者の見学を通じた知識の蓄積 修学に関する講義、ワークショップ 各研修員の出身国、移住地の日系移民についての歴史や文化の報告
高校・大学体験	日本の高校・大学の授業、部活等体験 日本の高校生・大学生との交流等
日本体験、日本語学習	日本の文化体験 日本語学習 ホームステイ
研修旅行	日系アイデンティティの構築 日本の産業界との交流 日本の社会・職業文化の理解



STEP 3



① Theme

- ・持ち物
- ・登校
- ・休み時間
- ・給食
- ・掃除
- ・SHR
- ・日直
- ・教科係

見 Key Word



相手が必要な情報

② Group's idea

ぶらぶら

③ New idea

まとめ Summary

🔄 Reflection



MAMI HASEGAWA

実践者	氏名	長谷川 真美	学校名	山梨県 河口湖南中学校組合立河口湖南中学校
	担当教科等	理科	対象学年(人数)	1年2組(32名)
	実践年月日もしくは期間(時数)		2024年11月～11月(3時間)	

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

道徳

国際理解・国際協力

【3】本時の授業タイトル

多文化共生を実現するために ～ブラジルから考える～

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

異なる文化をもつ人と共に生きていくために大切なことは何か、自分事として考えることができたか。

【5】単元計画(全3時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	今のブラジルはどんな様子？	現在のブラジルの様子を知り、いろいろな文化が街にあることを知る。	・attention selective test (YouTube)から、人によって見えるものが違うと体感する。 →いろいろな人がいることの良さに気が付く。 ・現在のブラジルについて、スライドを見る。	
2	なぜ移民した？その時の気持ちは？	日系移民の歴史を知る。	・日系移民の歴史について、スライドを見て知る。 自分に置き換えながら気持ちを考える。 ・バーンガで異文化体験をする	
3 本時	実際に日本からブラジルは移住した人に聞いてみよう	多文化共生を実現するために大切なことは？	・zoomでブラジルに住む日系人の方とお話する。 ・前時の異文化体験や、聞いたお話から、異なる文化をもつ人と共に生きていくために大切なことについて考える。	

【6】本時の展開(3時間)

本時のねらい かつてブラジルへ移民した日本人の様子や、現在のブラジルの様子から、異なる文化に出会ったときの気持ちを考えることを通して、異文化を持つ人を始め、自分とは異なる他者と共生していく実践意欲と態度を育てる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (3分)	○前時のふり返り ・移民の歴史 ・移民した人はどのような思いだったのだろう？ ・バーンガを行って感じたことの共有 「異なる文化をもつ人と共に生きていくために、大切なことは何か」		
展開 (27分)	○zoomでブラジルと中継 ・講師 自己紹介 ・日本からブラジルへ移って感じたこと ・質疑応答	・めあてについて考えを深められるような質問になるよう留意する	
まとめ (20分)	○異なる文化をもつ人と共に生きていくために、大切なことは何か ・クラスルームに入力 ・考えの共有	・考えがブラジルの日系移民に偏らないように留意する ・自分事と考えられるように「もし他の国から転校生がきたら？」等の発問をする	

【7】実践を終えて(成果、課題など)

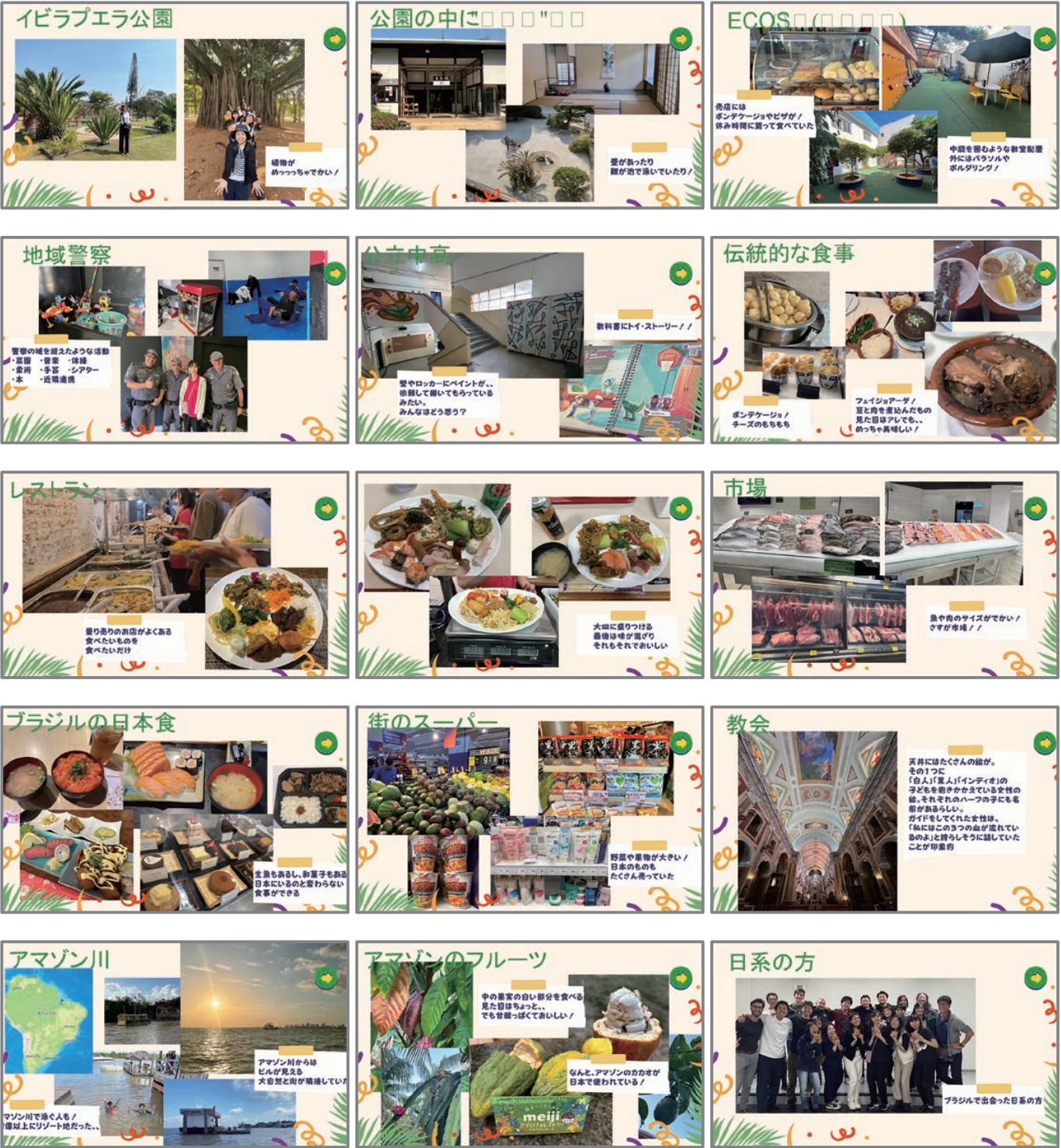
- 成果
- ・異文化体験ゲームを通して、異なる文化に出会ったときの気持ちを考えることができた。
 - ・相手を尊重することだけでなく、自分の主張をすることの大切さも考えることができた。
- 課題
- ・生徒自身から、「日常生活でも大切にしたいことだ」という意見がでるようにしたい。
 - ・「文化」と大きい枠ではなく、さらに「言語」や「人間関係」といった細かいカテゴリーでも深く考えていきたい。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

異なる文化をもつ人と共に生きていくために大切なことは何か」に対して

- ・言語や文化が分からなくても、最初から「分からない」と諦めるのではなく、分からないなりに頑張って理解しようとするのが大切だと思う。

- その国の文化はその国の文化と思い、受け入れることが大切だと思う。そして、自分たちの文化を教えていくことも大事だと思う。いろいろな文化がある人と交流することで、面白い文化や、驚く文化を知れたり、逆に驚いてくれたりするので、自分が成長することにもつながると思う。
- 自分の文化を押し付けるのではなく、異なる文化にも向き合ってみることが大切だと思う。文化の違いに戸惑うだけでなく、自分から知ることや自分の文化を知ってもらうことも大切だと思う。
- こちらの文化を知ってそれに慣れてもらえとより共に生きていけると思う。また、違うところだけを見つけるのではなく、似ているところを見つけて、相手と親近感をもって接することも大切だと思う。言語が通じなくても、文化が違ってても、あたたかく接して受け入れることが大切だと思う。



参考資料：授業で使ったパワーポイント





YUKI MURAMATSU

実践者	氏名	村松 優樹	学校名	神奈川県横浜市立田奈中学校
	担当教科等	社会科	対象学年(人数)	1年5組(36名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年12月(6時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

中学校社会科 地理的分野

南アメリカ州

【3】本時の授業タイトル

文化の多様性とアイデンティティ

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

【単元設定の理由・意義】

学校教育目標が「学び合い」「個性」「自立」の中、担当の学級は「個性」を大切にしようとする学級目標を掲げている。担任はちがいに気づき、ちがいを認める精神を大切にしたいと考えている。

【評価基準】

多文化社会の実現に向けた課題の認識と解決に向けて、学習内容を多面的・多角的に考察し、表現すること。

【5】単元計画(全7時間)

単元を貫く問い： 多文化社会を生きる南アメリカ州の地域から、どんな課題が見られるか。また、課題解決のために必要なこととは何か？

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	〈南アメリカ州の自然環境・歴史〉	教科書の内容を中心に基本的な南アメリカ州に関する知識を習得する。	ワークシートを用いて南アメリカ州に関する基本事項を押さえる。	- GoogleEarth - リオのカーニバル・カポエイラの動画 - 現地で撮影した写真

2 本時	〈南アメリカ州の産業と直面している環境問題〉	ブラジル・トメアスのアグロフォレストリーの実践例とともに環境保全への取り組みと直面している課題について学習する。	ワークシートを用いて南アメリカ州に関する基本事項を押さえる。また、環境問題への取り組みを動画を視聴して学び、メリットとデメリットを資料から考察する。	- 現地で撮影した写真 - Youtube「持続可能な農業「アグロフォレストリー」と、その実践者CAMTA農協 紹介動画」FRUTA FRUTA Channel
3 本時	〈文化の多様性とアイデンティティ〉	多文化社会を阻むものは何か、考察する。	○グループ学習 ・授業のテーマから自由に学習者同士が意見を交換し合い、広い視野で考え方をまとめる。	- 現地で撮った写真 - ニュース記事
4・5	〈南アメリカ州の課題〉	たくさんの資料から課題をまとめる	○グループワーク ・南アメリカ州において、多文化社会が生み出す新たな特徴と課題を工業、農業、文化や歴史の観点からグループごとに資料を整理し、発表しあう。	
6・7	〈よりよい社会を創るために〉	多文化社会を生きる南アメリカ州について、よりよい社会を目指すために課題解決に向けたロールプレイを行う。	○ロールプレイ ・「先住民」「ブラジル政府」「農業関係者」にわかれ、「環境保全を進めるか、開発を進めるか」というテーマに沿ってロールプレイディスカッションを行う。	NHK for School 「なぜアマゾンの熱帯雨林は注目を集めているの？」

【6】本時の展開

本時のねらい

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	1. 首都当て、地域当てクイズ(5分) 2. 何をもって「日本人」?(5分)	ここでいう「日本人」とは、生徒が日常生活の中で、何をもって「日本人」と判断しているか、外見から法律上の定義まで、広く取り扱うものとする。また、国籍法における定義もここで紹介する。	- Google Earth - 現地で撮影した写真 - 生成AI画像「ブラジル人」「日本人」「日系ブラジル人」 - Youtube「APEC 集合写真に石破総理が間に合わず フジモリ大統領の墓参りと事故渋滞で(2024年11月17日)」 - 元ペルー大統領アルベルト・フジモリ氏に関する記事
展開 (35分)	3. アルベルト・フジモリ氏の例 両親が日本人で、日本国籍をもつ人物がペルーの大統領をやっていたことについて学ぶ。 <u>日本からの移民。自国のリーダーに外国生まれの人が就くことについて賛成?反対?</u>		
まとめ (5分)	4. ○「日本人」として受け入れられづらい人ってどんな人? 例) 肌の色、ハーフ、言語が違う、日本語が話せない 5. 学びの振り返り <u>多文化社会を阻むものは?</u> ○ワークシートに学びの振り返りを記入する。		

【7】実践を終えて(成果、課題など)

○成果

生徒は意見交流の中で本質的な考え方の「ちがい」に気づき、受容できるかできないかの狭間で悩み続けることができていたこと。

○課題

現在の日本における、個人のアイデンティティや無意識な排外意識に突っ込むことの危険さがあるため、注意して学習を進めなければいけないという点。また、授業の中で自由な発言を求める一方で、人権侵害にあたる発言との線引きを授業者が理解しておかなければ成立しないということは課題であると感じた。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

- 多文化社会が日本で実現するには時間がかかると感じた。これだけクラスの中で外国生まれのリーダーに反対な人がいるのも事実なので、お互いに慣れて分かり合う時間が必要だとおもう。(Tさん)
- 何をもって日本人とするかはその人自身が決めることで、ほかの人が勝手に決めつけてはいけない。(Yさん)
- 外国につながるのある人の意見もたくさん取り入れたほうがいい。一方で日本のことをよく知ってもらってから日本人と認めることは必要だとおもう。ただ、あまり日本に携わる時間が多すぎたらその人の意見は日本人らしい意見になってしまうから、新鮮ではなくなってしまうから難しい。(Sさん)

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

- 職員へ JICA の活動を周知
- 文化祭にて、学校全体を対象に、英語部の活動と連携して国際理解に関する活動報告の実施
- 社会科にて、多文化社会をテーマとした授業実践
- 特別の教科 道徳にて国際理解に関する授業実践
- 個別支援学級での授業実践

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

活動報告書の作成、ワークショップへの参加(JICA 横浜の教師海外研修の一環)

【11】今後、続けていく活動について

- 英語部との活動連携
- 自身の授業実践
- 職員へ JICA での活動周知

参考資料: YouTube サイト

APEC 集合写真に石破総理が間に合わず フジモリ大統領の墓参りと事故渋滞で(2024年11月17日)

AI生成画像



「日本人」



「ブラジル人」



「日系ブラジル人」



授業の様子

授業で使ったパワーポイント

第2章 世界の諸地域 第5節 南アメリカ州

【学習課題】

多文化社会を
阻むものは何か？

アルベルト・
フジモリ 氏
(1938～
2024)



石破総理大臣による
故フジモリ元大統領墓参
(2024年11月16日)



AI画像生成アプリ検索
日本人？日系ブラジル人？ブラジル人？



(答えは左から)日系ブラジル人、ブラジル人、日系ブラジル人



AI画像生成アプリ検索
日本人？日系ブラジル人？ブラジル人？



(答えは左から)日本人、ブラジル人、日系ブラジル人



AI画像生成アプリ検索
→世間一般のイメージ

【学習課題】

多文化社会を
阻むものは何か？



YANG LIHWA

実践者	氏名	梁 梨花 Yang Lihwa	学校名	神奈川県 横浜市立豊田中学校
	担当教科等	国語科(実践は道徳科)	対象学年(人数)	1年1～5組(約200名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年9月～2025年4月(11時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

道徳科

「地域ゆめプロジェクト」
～地域で叶えたい夢の企画を発信しよう～

【3】本時の授業タイトル

「地域ゆめプロジェクト」学年交流会

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

以前、町内の連合会長さんから、「「地域」ということばを校内で探したけど、ほとんどなかった」というお話をいただいたことがあった。ブラジルでは、日本からアマゾンに移住し、ジャングルを切り拓き、農業を営んできた人々の話や、その方たちの日々を楽しむ姿勢から、「共生」とは、まずは一人一人が自分の役割を愛し、何かを創造できることだと考えるようになった。そこで、生徒一人一人が、自分の暮らす地域の一人として、夢をもてるといいと考えた。また、そのために、人から受信したり発信したりする力を生徒自身が育めることを目指した。企画では予算案を立てることとしたが、これは日本からブラジルに移住した方から、現地で教育についてアドバイスをいただいた際、中学生の頃から、お金をどう稼いだり、やり繰りしたり、考えることが、生徒の自立心につながると教えていただいたからである。講評をいただいた地域の先生から揺さぶっていただいた価値観は、「どんな夢も、それを描いたところから始まる」。今ここから、現実を変えたり、未来をひらいたりすることができる希望や自信をもたせていただいた。

【5】単元計画(全11時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	地域ゆめプロジェクト～受信編～	それぞれの地域での「共に生きる」事例や取り組みを知る。	ブラジルや他の地域の共生的な取り組みや魅力について大人たちから話を聞き、地域で共に生きることについて知る。	

2	地域ゆめプロジェクト～実践編～	自分の暮らす地域への関心を育み、共に生きることについて考える。	地域で叶えたいゆめの企画を考え、ポスター作りをする。クラス発表会をひらく。	
3 本時	地域ゆめプロジェクト～発信編～(送受信編)	互いの夢を共有し、共に生きることについて、考えを深める。学年の仲間と共に学び合う気持ちを育む。	「地域ゆめプロジェクト」の学年交流会をひらき、質疑応答し、地域の方から講評をいただく。(今回は学区の大学の先生)	

【6】本時の展開(6時間)

本時のねらい 互いの意見を交流し、地域で共に生きることについて考えを深める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (1分)	・はじめのことば	・質疑応答の時間をつくる。	
展開 (34分)	・地域ゆめプロジェクトの発表 ひとり4質疑応答含め4分×10名	・司会原稿をつくったり、やことばの指導などをせず、生徒が自身のことばで語れるようにする。	
まとめ (15分)	・講評 ・おわりのことば ・ふりかえりの記述	・生徒が助け合って運営できるよう、なるべく離れたところから見守る。	

【7】実践を終えて(成果、課題など)

生徒たちが、その場で初めて聞く発表や質問に対して、真剣に考え答える姿があった。今回の「ゆめプロジェクト」を継続し、「叶えるプロジェクト」に繋げていきたい。

【8】学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

自分が叶えたい企画について、詳細かつ具体的に、真剣に悩んだり、教員とも議論したりする姿があった。学年交流会では、他のクラスの発表者の発想に驚いたり、質疑応答では、予想外の答えに笑ったり、どよめいたりして、生徒同士がお互いの考えのよさを知れる機会となった。発表者にも、運営した生徒たちにも、事前のリハーサルにないアドリブが多くあった。

〈生徒の感想〉

- どれも、個性があり叶ってほしいプロジェクトばかりだった。この地域をより良くしようという熱量が伝わってきた。

- 日本人の子どもや大人に限らず、外国の方、おじいさん、おばあさん、障害者、動物など色々な人が楽しめたり、交流ができただけでなく、いろんな問題を解決することができるという発想がすごいと思った。
- 発表していた人みんなが自分のことだけでなく地域の人みんなのことを考えていて、とてもいいなと思った。

〈まとめと成果〉

JICA の事後研修では、山西先生から、「国際理解教育」を地域の視点で考え、地域にどうつなげていくかが重要であるとして指導いただいた。今回、ブラジルでの研修で得た知見（アグロフォレストリー等）を紹介したことで、生徒が自然に、多様な言語文化をもつ人や、人間だけでなく、自然とどう共生していくかということを考え、企画を立て、学年全員で共有することができた。これからも、生徒が自ら考えて学びを深めていけるような導入を工夫し、互いの多様な発想を分かち合うことで、学びを深めていきたい。（今回の研修で11名の教師の仲間同士での学びのように）

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

上記以外で、秋の国語科の授業で、世界の多様な民話や文学作品を題材にして演劇の授業を行った。冬に、中学1年生の生徒たちに、戦争をテーマにした絵本の学習に付随して、国や文化を越えて交流する人の話を聞かせた。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

2025年2月に、オンラインで、国内外で「平和」や「教育」や「歴史」を研究する研究者たちに、ブラジルでの研修や事前事後研修で取り組んだことや感じたことを報告した。

【11】今後、続けていく活動について

今回の「地域ゆめプロジェクト」を、第2段階、第3段階と続け、生徒たちが実際に企画を実現できるところまでサポートできるようになりたい。それらを、地域、他地域へと発信し、国際理解に繋げていきたい。

「共生」について、教室や国内外をフィールドに探求を続け、発信していきたい。

参考資料：本時のプログラムポスター



地域ゆめプロジェクト

横浜市立豊田中学校/1学年/交流会

2025.2.28 [Fri]14:25~15:15

◆ 健やかに学び、共に生きる ◆

運営：豊田中学校 福祉委員会

- 1-1 「戸塚夢の国～誰でも楽しめるオリエンタルランド」
- 1-1 「横浜に空港を！」
- 1-2 「通学路って安心して通れましたか？」
- 1-2 「小中学生に向けた医療授業を」
- 1-3 「ポッチャ大会」
- 1-3 「食田駅をつくる」
- 1-4 「スポーツで交流!!アクティビティーパーク」
- 1-4 「すべての動物が快適に暮らせる地域へ」
- 1-5 「子どもだけで楽しむ！」
- 1-5 「自然を守ろう」

講評：明治学院大学国際学部 横浜NGOネットワーク理事長
神奈川開発教育センター理事 小野行雄先生

〒 横浜市戸塚区下倉田町950 www.edu.yokohama.lg.jp/school/jhs/toyoda/
☎ 045-864-8640







道徳科
後期の授業について

道徳部
关于第二学期课程

2024.9.9 体育館 道徳担当

アマゾンのジャングル・クイズ
亚马逊丛林测验

次の中で、子どもが一番怖かった動物はどれでしょう？

孩子最害怕以下哪种动物？

アリクイ（食蚁兽）



当它厌倦了逃离人类时，它会放弃并从后面攻击并剥掉它的皮肤！

後期 道徳 授業のテーマ

「地域」で叶えたい「夢」
企画を発信しよう！

（健やかに学び、共に生きる）

サンパウロ移住資料館の館長さん
コロニア語
（ブラジルのポルトガル語と日本語を混ぜた言葉）



日本からブラジルへ移住した人たち
从日本移民到巴西的人

- ・1908年～100年間で、仕事を求め、200万人の日本人が移民した。
- ・農業で生活をした。
- ・行ってみると、アマゾンのジャングル。
- ・森を切り拓いて、家を建てるところから始まった。

走吧，带上家人，去巴西吧！



トメアス（アマゾン川の河口の町）
Toméasu（亚马逊河口的小镇）



久保田 忍さん（90）
7歳→満州→成人 日本→34歳 ブラジル（アマゾン）

アグロフォレストリー
生物の多様性を共存させる農業方法
农林業（一种允许生物多样性共存的农业方法）



しのぶさんがずっと大事に育ててきた「ブラック・ダイヤモンド」と呼ばれるあるものは？
忍先生长久以来所珍视的是什么？

① ブルーベリー

② ドラゴンフルーツ

③ コショウ



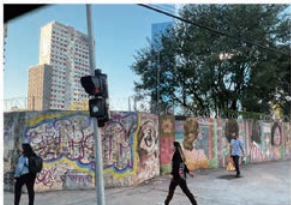
答え 3 コショウ
胡椒



探求のヒント② サンパウロの交番
（任务提示 2 圣保罗警察局）



探求のヒント② サンパウロの学校
努力利用墙面涂鸦



質問コーナー
あなたが「地域」で叶えたい「夢」の企画の案は？
对于您想在“当地”实现的“梦想”项目，您有何想法？



日本タウンのマクドナルドにて
在圣保罗的麦当劳



涂鸦艺术被融入学校储物柜，点亮孩子们的心灵。



約束の品について
お魚クイズ 魚测验



サンパウロの市場 圣保罗市场



野菜・果物



アマゾンに住む世界最大の淡水魚は？
生活在亚马逊地区的世界上最大的淡水鱼是什么？

① テイラピア 罗非鱼

②ピラルクー 巨骨舌鱼

③ピラニア 食人鱼

②ピラルクー 巨骨舌魚
写真はインターネットより



ピラルクーの鱗（ウロコ） 巨骨舌魚鱗片



ブラジルの日本人移民について
在教室里放一本有关巴西日本移民的漫画



次回 9月30日
探求のヒント 質問募集中！

・ 町内会連合会長

・ つくもださん

下次，当地联合会主席将发表讲话。



以上。

後期
道徳の授業について





MASAFUMI OSHIDA

実践者	氏名	押田 聖史	学校名	神奈川県立厚木王子高等学校
	担当教科等	英語	対象学年(人数)	2年5組(38名)
	実践年月日もしくは期間(時数)	2024年11月14日～11月15日(2時間)		

【実践概要】

【1】実践した教科

【2】単元(活動)名

英語コミュニケーションⅡ

LESSON 6 Yusra Mardini

【3】本時の授業タイトル

「移民」と「ルール」について考えよう

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

多文化共生を考える際にその場の「ルール」を理解することの大切さは切っても切り離せない。
全2時間で、本校の校則と紐づけて「ルール」を理解することの大切さを学ばせたい。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	多文化が共生するために重要なことは？ ①	多文化共生を阻む要因は何かを考える。	- アイスブレイク(コロニア語クイズ) - ブラジルの日系移民について学ぶ。 - リスニング(ユリさんのインタビュー)① - 著名人には移民が沢山いることをヒントに、「異なる文化や考え方」がもたらす恩恵について考え、共有する。 - 移民と、犯罪率について考える。 - 本校の校則による保たれる「安心」について考える。 - 日本で暮らそうとしている、海外から来る人たちに伝えたい日本のルール(マナー)を作成する。	論文(コロニア語について) jfl_070_053_070.pdf 日系移民について(You tube) https://youtu.be/3jzHktKYDhs?feature=shared
日本で暮らそうとしている海外からの人々に伝えたいルール(マナー)を共有しよう				

2 本時	多文化が共生するために重要なことは？ ②	多文化共生についてルールの重要性について考える。	- 日本で暮らそうとしている、海外から来る人たちに伝えたい日本のルール(マナー)を発表する。 - 中編読解に取り組む。 - バーンガ(異文化体験ゲーム)をおこなう。 - 米元大統領の動画を視聴する。 - リスニング(ユリさんのインタビュー)②	「異文化体験ゲーム」を改変
移民の人々に、日本のルール(マナー)を正確に伝えるには？				

【6】本時の展開(2時間)

本時のねらい 「共生」とルール

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (10分)	1.外国から来る人たちに伝えたい日本のルールを発表する。 ・何故そのテーマにしたかを説明する。	クラスメイトの発表を聞く態度の指導をおこなう。	オリジナル資料
展開 (30分)	2.中編読解をおこなう。 ・「日本でのルール」をトピックにした読解を解く。 3.その国(地域)のルールを理解することの重要性を学ぶ。 ・バーンガ(異文化体験ゲーム)をおこなう。	集中して取り組む雰囲気づくりをおこなう。 終了後にどんな気持ちになったかを考えさせ、移民の人々の心情と関連付けられるような説明をする。	オリジナル文章 「異文化体験ゲーム」を改変
まとめ (10分)	5.多文化共生において、ルールを周知させることの大切さを考える。 ・考えていることを素直に書かせる。	集中して聞く指導をする。	
移民の人々に、日本のルール(マナー)を正確に伝えるには？			

【7】実践を終えて（成果、課題など）

生徒の中で異文化理解、多文化共生という言葉が「ピンとこない」中で、どのように伝えたらよいか考えた結果、授業内でバーンガ（異文化体験ゲーム）をおこなう選択しました。

結果、生徒の反応は私の予想以上で、「自分がマイノリティになった時、どんな思いをするか」を多くの生徒が感じ、考えてくれました。授業後の振り返りシートでも、「不利な立場の人の気持ちになることが出来た」や「違う文化を持つ人が日本で困らず生活するにはどうしたら良いか考えようと思った」など、異文化理解の第一歩になったのではないかと感じました。

【8】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

上記にある内容以外にも、「海外の文化に興味を持った」「実は私、外国につながりがあります」「色々な文化背景を持つ人々が仲良くできるとは思えない」などといった赤裸々なコメントが見受けられた。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

今回の授業以外の授業でも、多くの先生に参観いただき、国際理解教育について意見交換を行った。

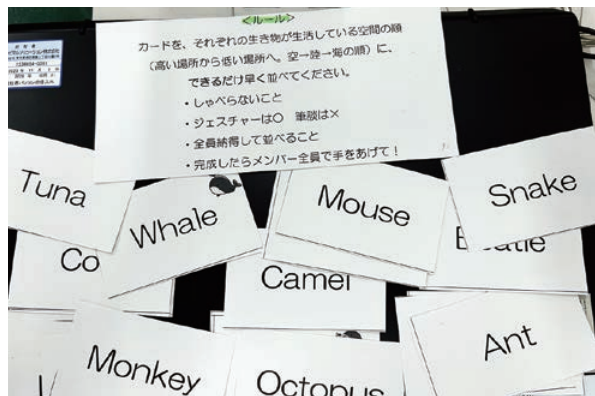
【10】学校外で国際理解教育を広める取組

今後、組合を通じて、研修メンバーの報告内容を共有する予定。

【11】今後、続けていく活動について

職員室内での他愛もない会話の中で、異文化理解教育について触れたい。

参考資料：授業の様子（写真）



バーンガ（異文化体験ゲーム）のカード



日系ブラジル人（ユリさん）とのインタビュー動画より

 SHIORI KIKUCHI				
実践者	氏名	菊池 史織	学校名	神奈川県 私立公文国際学園高等部
	担当教科等	英語	対象学年（人数）	高等部2年（160名）
	実践年月日もしくは期間（時数）	2024年10月10日水曜日（1時間）		

【実践概要】

【1】実践した教科

総合的な学習の時間

【2】単元（活動）名

多様性を理解し、すべきことを考え、
実践する

【3】本時の授業タイトル

“Diversity” –Multicultural coexistence–

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

国や文化、年齢や性別による「違い」だけではなく、個人個人「同じではない＝ひとくくりにしない」ということと、人として「同じ」ところもあるということを理解することは、今後グローバル化が進む社会で生きていく上で大切な概念である。生徒自らがそのことを自覚して、自ら大切にする動機づけを行う。

【5】単元計画

事前事後学習：5時間

宿泊学習：大分5日間、シンガポール7日間、ニュージーランド7日間

事前学習：大分、シンガポール、ニュージーランドでの宿泊学習に向け、それぞれの地域の「多様性」について調べる

宿泊学習：大分、シンガポール、ニュージーランドでの宿泊学習における体験・経験を通して、「多様性」を自ら体感する

事後学習：「多様性」についての講義を通して理解を深める（本時）
「多様性」について自分自身の考えをまとめ、発表する（英語によるポスターセッション）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 1～2 時間	異なる文化について調べよう	参加するコースで訪れる訪問先について各自で調べる	各自でテーマを設定し、調べ学習を通して考察を深める まとめたことを発表する	

2 5～7 日間	異なる文化の中で多様性について学ぶ	各コースで大学生のバディと共に「多様性」について講義を受ける	国や文化、民族以外にも、身体的・精神的困難を抱える人を理解するという視点で、多様性への理解を深める	
3 本時 60分間	多様性について考える	自分がすべきこと、できることについて考える	1 食事から見る文化・習慣の違い 混ざる文化、分ける(区切る)文化 2 共存と共生 言葉の定義 3 多文化(マーク図) マークを用いたイラストから感じることを考える 4 壁面の移民者リスト 移民資料館の写真を観察し気づいたことを共有する 5 移民・難民(公平・公正・平等) イラストから公平・公正・平等について考える 性差や宗教に起因した時事問題について知る、考える 6 ここはどこ(交番・学童施設) 自分にとっての当たり前が、いつも当たり前とは限らない 7 アグリフォレスト(人間・自然の共生) 均一であることのメリット・デメリット 世界は人間だけのものではない 8 何に気づく? 社会における自分 9 富の再分配 ジニ係数 幸せとはなにか 10 それぞれの多文化共生 隣の人も自分とは違う	※添付資料 スライド ワークシート JICA 資料 写真
4 1 時間	多様性について発表する	自分の考える「多様性」について発表する	「共生を阻むもの」 目標：多様性を尊重した社会とはどのような社会か 課題：障壁となっているものは何か 行動：解決のためにすべきこと・できることは何か 上記をまとめて互いに発表し、共有する	ポスター (各生徒) (添付資料参照)

【6】本時の展開			
本時のねらい 「多文化共生を阻むもの」について考え、伝えあう			
過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
60分間 導入 (15分)	1 食事から見る文化・習慣の違い 皆にとって興味関心の高い「食事」を導入に用いることで授業へ自然に集中する雰囲気を作る 2 共存と共生 それぞれの持つ「概念」を共有した後、辞書にある言葉の定義を学習する(共存ではなく共生をテーマにしていることを認識させる)	一方的な講義にならないようにクイズやペアワークを適宜取り入れる	- 図(JICA 教師国内研修において共有) - ワーク 壁面の名前 アグリフォレスト
展開 (35分)	3 多文化(マーク図) 「正解」のない課題について、自分たちがそれぞれ「心地よい」と感じることにについて、また障壁となることについて共有する 4 壁面の移民者リスト 写真を見せて観察を促す(得た情報から自分なりに推測する) 5 移民・難民(公平・公正・平等) ニュージーランドで学習をした生徒が自分たちの学びと、意見を全体に共有する 理想と現実(現状と課題)を全体で話し合い、ジブンゴトとして捉える 6 ここはどこ(交番・学童施設) 自分自身が無意識のうちに持つ固定概念について認識し、異なる視点で物事をとらえ、視野を広げる 7 アグリフォレスト(人間・自然の共生) 地球を人間中心ではなく、生命体全体の共生という視点で捉える	「正解」ではなく、感覚を共有する - 観察力、洞察力を養う - 机間巡視をして、ワークシートの記入内容について適宜発表を促す	写真： 移民資料館 交番 放課後児童施設 渋滞で物売る親子
まとめ (20分)	8 何に気づく?(サンパウロ渋滞の中の親子の写真) 経済格差における共生社会について考える 9 富の再分配 それぞれの「幸せ」の定義について知り、共生社会に向けてすべきことについて考える 10 それぞれの多文化共生 同じ集団にいる、カテゴリーにいる者同士も一人一人異なり、半径1メートルの中にも多文化共生社会が存在することを再度認識する		

【 7 】 実践を終えて（成果、課題など）

「異質の他者を認める」という建学の精神を生徒たち自身も大切にしている。そのため、「多文化共生」への興味関心がもともと高い。生徒たちは入学時から課題意識を持っているため、国や文化における多様性についての理解はある程度認められる。

一方で、身体・精神的困難、ジェンダー、格差についての理解はまだまだ浅く、他人事からジブンゴトと捉えることはできていない。次世代の社会を担う世代としてのマインドセットが今後の課題だと感じる。

【 8 】 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

ワークシートと感想から一部抜粋（添付資料参照）したものを以下に挙げる。

「あなたの考える多文化共生」

- 自分が稼いだお金を誰かに与えるのは嫌だし、持てる者は持たざる者に与えなければいけない考え方も嫌だが、将来を生きる人のために投資と考えると富の再分配は必要と考える。
- 一緒に存在するだけでなく、互いの価値を尊重しながら生きていくこと。だけど、お金の観点で言うと、自分が一生懸命稼いだお金を貧困層に渡すのは違うと思う。努力すればある程度稼げるから。
- どんな人も同じ“人間”として接することのできる社会。もう“〇〇人”とかじゃなくて、“地球人”で認識できたら良いと思う。例えば聴覚に不自由がある人がいたとして、その人をめっちゃくちゃ特別扱いするとかではなく、同じ1人の人間として話したり遊んだりすること。
- 多文化共生は必ずしも良いとは限らない。確かにダイバーシティなのは良い事だし、それをインクルージョンで共生するのも良いが、本当に、とりあえず多文化共生するのがいいのか？
- 互いの文化を守り尊重し合える環境、自分たちの文化が守れるだけの関わりを持つことは大事だが一定の妥協やラインを引くことが互いのためにも必要だと思う。
- 経済、多文化同士での衝突、治安など多文化共生における憂慮すべき点は多い。それらを折り合いよく解決できる方法が確立するまでは人口増加等の利益を優先させるべきではないと思う。よって多文化共生は「今のまま」では理想論だと思う。
- それぞれの大切にしたいベースの文化や宗教、ことがある上で、それらを他人に揶揄されることなく、暮らしていける環境があり、人と人が交流するときは互いに1人の人として、尊重し合うことだと考えた。
- 私にとって「多文化共生」は隣にいる人を「その人自身」を見つめることだと思う。国籍や性的嗜好というカテゴリーにある固定概念ではなく、その人自身を知って、人は一人一人違うと認識すること。

【 9 】 学校内で国際理解教育を広める取組

- 学園 HP にて「JICA 教師海外研修」においての学びや気づきについてまとめた文書を発信している
- 学園 FB にて実践授業の様子についてまとめた記事を掲載している
- 所属学年以外で1時間の特別授業を計画（1月、2月で調整中）
- 3月に教員対象に報告会を予定している（日時は未定だが、放課後）

【 10 】 学校外で国際理解教育を広める取組

- 「多文化共生」をテーマとした出前授業に赴く予定（公立私立校種にとらわれず予定を調整し、可能な限り実践にうつす）

【 11 】 今後、続けていく活動について

- 学校内にとどまらず、多文化共生をテーマとした活動に積極的に参加する。また、生徒を含め身近な人に声をかけて参加を呼びかける。
- 「多文化共生」を通して体験したこと、考えたことをまとめて発信していく。

参考資料：

<https://elemminist.com/article/2778>

<https://www.weblio.jp/content/%E5%85%B1%E7%94%9F>

<https://happiness-report.s3.amazonaws.com/2023/WHR+23.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/content/12605000/R03hou.pdf>

<https://www.worldbank.org/en/home>

<https://www.meiji.co.jp/>

<https://www.nef.or.jp/>

<https://www.frutafruta.com/fruit/camta/>

<https://www.bbc.com/japanese/articles/cgl777mk8v1o>

1 食事から見る文化・習慣の違い

1 食事から見る文化・習慣の違い

ばらん
バランはお弁当の彩をよくするため、おかず同士がくっついて味や色が変わるのを防ぐために使用する

盛り盛り
ブラジル定番
食べたいものを食べたい分だけ、平皿に盛り付け、重さに応じて会計をする

2 共存と共生

1. 共存・共生
共存
二つ以上のものが同時に**生存・存在**すること。
共生
共に同じ所で**生活**すること。

3 多文化 (マードック)

2. 多文化共生

4 難民の移民者リスト

5 移民・難民 (公平・公正・平等)

6 ここはどこ (映画)

7 アダリアレスト (人間・自然の共生)

8 ここはどこ (学芸演劇)

9 何に気づく? (劇場で物を見る様子)

8 富の再分配

順位	国・地域名	ジニ係数	年別率
1	南アフリカ	0.630	2014
2	ナミビア	0.561	2015
3	コロンビア	0.548	2022
4	エタワティニ (スワジランド)	0.546	2015
5	ペリウ	0.533	1999
6	ボツワナ	0.533	2015
7	ブラジル	0.520	2022
8	ザンビア	0.515	2022

ジニ係数 世界
一般的には、ジニ係数が0.5を超えると「格差が大きすぎるために暴動が起こりやすい」と言われています。
世界で唯一0.6を超える南アフリカは極めて格差が大きく、危険なレベルにあるといえます。

授業の様子



使用したワークシート

October 10th THE LECTURE

Q1 多文化共生と聞いて浮かぶことは? ()

Q2 共存と共生の違いは何ですか? ()

Q3 まるのイラストを見て感じたこと

Q4 写真は何を表す? ()

Q5 移民・難民の受け入れ理由 (積極的 ・ 消極的)

Q6 ここはどこ? 1 ()

Q6 ここはどこ? 2 ()

Q7 2枚の写真 (同じ ・ 違う)

写真を見て、気づいたこと

Q8 何に気づく?

Q9 富の再分配は必要か? (必要 ・ 不必要)

Q10 あなたの考える多文化共生

Class () No () Name ()

授業の様子





KENJI SHIBA

実践者	氏名	芝 健司	学校名	神奈川県立磯子工業高等学校
	担当教科等	地歴公民科	対象学年(人数)	高校1年 1組(機械科25名)
	実践年月日もしくは期間(時数)		2024年10月15、17日(2時間)	

【実践概要】

【1】実践した教科

高等学校 地歴公民科「公共」

【2】単元(活動)名

国際政治の課題と日本の役割

【3】本時の授業タイトル

世界の人権問題と日本

【4】単元設定の理由・意義と評価基準について

【単元設定の理由】

日本はドイツ、アメリカ、スペインに次いで世界で4番目に移民が多い国である（朝日新聞、2020）にも関わらず、多文化共生を実現しているとは言い難いからである。日々生活していく中で、外国との貿易や外交なしに私たちの生活は成り立たないことをふまえて多文化共生を考えさせたい。

【単元設定の意義】

多文化共生社会の実現を何が阻んでいるのか、彼らの生活と関連付けて考えることによって、社会的な見方・考え方が広がり、平和で、民主的な社会の担い手に必要な資質・能力を育成することである。

【評価基準】

国際社会における日本の役割や、人権問題に関して、平和で民主的な資質・能力を身に付けているかを評価の基準とする。習得に関しては定期テスト等で習得の状況进行评估する。活用に関しては獲得・構成した知識を活用できているか、ルーブリックを用いた論述課題等で評価する。

【5】単元計画(全2時間)

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	世界とつながる私たち	私たちの生活と世界経済とのつながりを理解させる。	身の回りのモノの生産国を調査し、自分たちの生活を支える製品やそれを作る人々、貿易や国交について理解させる。 生徒たち自身が将来仕事の都合で日本以外の国で仕事・生活をする可能性を伝え、だれにでも移住・移民の可能性あることをシュミレーションによって理解させる。外務省のHPにアクセスさせ、移住予定国の情報・知識を獲得させる。	・自主作成ワークシート
2 本時	多文化共生を阻むものは何か	国際社会との外交・貿易・交流なしに生活は成り立たないのに、なぜ多文化共生社会の構築は困難であるのか考えさせる。	これだけ国際的な相互依存、相互互惠関係が進んでいるのに、なぜ多文化共生は実現が難しく、世界各地でヘイトや排外主義はなくなるのかを考えさせる。 導入のワークでは、移民の活躍により社会が発展していることを理解させる。自分たちの生活と関連させながら多文化共生を阻むものについて、グループで議論し、発表させる。 ブラジルと日本をオンラインでつなぎ、生徒から多文化共生に尽力しているサンパウロの「あいのこ会」代表の方への質疑応答を通して、学びを深める。	・自主作成スライド ・JICA横浜2024授業アイデア集

【6】本時の展開

本時のねらい

多文化共生を阻む要因・存在について考えさせ、公民科がめざす目標を達成する。
その要因・存在をどのように乗り越えられるのか、今後の学習につなげる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問 および学習活動・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	ワーク「共通点を探せ」 ■発問： 「次の3人には共通点があります。それは何だろう?」と問いかけ、生徒の意見を引き出す。 ■学習活動： 3人の共通点は「移民」であることを教える。アップル創業者のスティーブ・ジョブズはシリア移民の子ども、アマゾン創業者のジェフ・ベゾスはキューバ移民の子ども、グーグル創業者のセルゲイ・ブリンはロシア移民の子どもである。	・移民を排除しない寛容なアメリカの風土が起業精神を育み、ビジネスで成功し、人々の生活を豊かにしてきたことを指摘する。 ・アメリカの成功、成長はいわゆる「アメリカ人」だけではなく、移民が大きな役割を担ってきたことについて気付かせる。	・JICA横浜2024授業アイデア集

	移民を排除せず包摂し、社会が発展してきたことを学ぶ。 ■指導形態： ソクラテス式講義	ただし、移民を経済的な側面のみで捉えると人権が侵害される可能性を指摘する。	
展開 (45分)	■発問： 「多文化共生をはばむものは何か？」 ■学習活動： ・予告編「沖縄サントス」のYouTube映像を視聴する。歴史的にも移民は差別され、現代まで多文化共生は困難な課題であり続けていることを理解させる。 ・グループディスカッション 「多文化共生をはばむものは何か？」 →考えたことをホワイトボードに記入 →記入したことを発表＋質疑応答 ・ブラジルと中継 生徒から「あいのこ会」代表の方に多文化共生・国際理解に関する質疑応答を行う。 ■指導形態： 一斉講義、グループディスカッション、外部との連携（オンライン）	・映像視聴後、日系移民へのブラジル政府の謝罪に関する記事を読ませて、ブラジル政府の対応を紹介する。 ・生徒たち自身の生活と結びつけて考えさせる。特定の国家や国民に対するヘイトにならないよう思慮深く、慎重に言葉を選ぶよう指導する。	・「沖縄サントス」予告編 YouTube映像 ・新聞記事 ・「あいのこ会」代表のメッセージ
まとめ (5分)	■学習活動： 正答主義、コレクティズムに陥らないよう、特定の「答え」がある問いではないことを理解させたうえで、「多文化共生をはばむものは何か」に対する結論をクロームブック・PCなどを用いてGoogleクラスルームに入力させる。ディベート的な問いに対して価値判断を下して、結論を導かせる。	・社会構成主義を理論的支柱とし、知識の構成を支援する。 ・どのような社会を望むのか、国民主権に基づき、社会の在り方を決める主体であるという意識形成をはかる。	

【7】実践を終えて（成果、課題など）

■成果

教材に関しては、自分自身が実際にブラジルを訪れて現地で多文化共生について深く考え、その後も学び続けていることもあって、自信を持って生徒に提示することができた。教授方略に関しても、ケラーのARCSモデルを理論的支柱として授業を設計し、動機づけを高められたと捉えている。生徒の議論やふりかえりの記述を分析してみても、知識が構成されていることから、社会構成主義を軸とした学習の成果といえる。在ブラジルの専門家との中継により質疑応答をおこなったことで、生徒に国際的な視野を持たせ、地球を俯瞰する経験・体験によってグローバルな視点を実感させることができた。今回の学習をローカルな文脈での学習項目と関連付ける取組を継続したい。また、横浜国立大学大学院と連携し、教職志望院生を授業にご招待した。高大連携の一環として実践をひらき、外部の知見を得たことも成果といえる。

■課題

教師が経験できることには限りがある。今回は自分自身が経験したことをもとに実践したが、年間の学習を通してそうした実践ができていないわけではない。また、授業においてヘイトスピーチのような主張に陥らないよう指導しているが、彼らが授業の外で接する情報にヘイトが含まれていると考えられる。学校での実践の限定性を自覚しながら、「社会」をよりよくする公民的資質をどの程度高められたかについては課題が残る。多文化共生のために、「違い」にどう取り組むのか、文化やルールの「共有」は「同化」となる可能性もある。どのような多文化化が望ましいのか、具体的な国際比較をふまえて価値判断を下させるまでには至らなかった。時間数に限りがあること、学習指導要領に準拠しながらどのように多文化共生教育を深められるか検討し続けたい。

■授業観察者のコメント

・人の弱さの側面にも迫っており、社会科にとどまらない学び、人間に迫る学びだと思った。左の一番前の生徒が「沖縄サントス」を見る際、身を乗り出していて興味をかなり持っていた。3班の子のアイデンティティをあらわせるほど、教室の心理的安全性が高い。生徒の発言に対するレスポンスから、授業者の教育観、知識の奥深さを感じた。社会を見る目を育てる授業とはこういうものなのだったと思った。

【8】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）

多文化共生を実現し、人権が保障される社会にするために、何が多文化共生をはばんでいるのかを生徒に問うた。グループディスカッションと発表、多文化共生に尽力されている在ブラジルの専門家との質疑応答を経た生徒のふりかえりを学びの軌跡とする。

■生徒のふりかえりの記述

- ・多文化共生をはばむものの一つは宗教間の対立だと思っていて、実際に宗教紛争という単語があるほど宗教間の対立は大きな問題だから。
- ・多文化共生を阻むものは、人々の一人一人が持つ偏見だと思います。なぜなら先入観から決めつけて避けたりあらゆる事を制限したりするからです。
- ・多文化共生をはばむものは言語の違いだと考えました。理由は言葉の意味が分からないと伝わらないことがほとんどだし、自分の言葉で自分の気持ちを伝えられないのはとても不安なので言語が違うと難しいことが多いと思います。

【9】学校内で国際理解教育を広める取組

勤務校の職員を対象に、11月18日に校内報告会を会議室にて実施した。自由参加にも関わらず、多くの先生方にご参加いただき、学校内において国際理解教育、多文化共生教育について意見を交わす貴重な機会となった。参加者にアンケートを記入していただき、今回の研修の成果と課題について記述していただいた。以下は参加者アンケートの記述である。

研修の成果：

日本では多文化、多民族、多人種等について考え始めているが、既に多文化、多民族、多人種になっているブラジルに実際に行って研修に参加したことで、資料や映像等では伝わりにくいところまで「実感」できたことが成果だと思います。また、この成果を様々な場面で活用することで、成

果を最大化できると思います。実際にブラジルの現地で研修を行ったという貴重な経験、様々な学びを様々な場面で活用してください！

研修の課題：

貧困層の学校や生活についても研修できればさらに良いと思いました。学校だけではなく、警察（交番）や博物館等についても研修をできたのでよかったが、他の施設（病院、消防、図書館、民間企業等）についても研修できればさらに良いと思いました。

【10】学校外で国際理解教育を広める取組

● 横浜国立大学大学院教育学研究科の大学院生を対象に、10月17日の JICA 実践授業にご招待した。将来教職に就く大学院生に対して、研修によって自己研鑽を積み、学校や教員が抱える課題を克服するための1つの手立てとして研修があることを示した。

● 「TEA と質的探究学会」に関連する「TEA 研究会」において、本研修を経て私が作成した TEM 図「ブラジルが多文化共生社会を構築するプロセス」と題して9月18日に研究会で発表した。研究者コミュニティに多文化共生に向けて学校現場の教員が取り組んでいることを示した。またそれを研究として形に残して示すことができた。

● 横浜国立大学大学院の「学校課題解決研究」にゲストティーチャーとして2025年1月21日に授業を実施することが決まり、所属する学校外で国際理解教育を広める取組として意義深く捉えている。大学院という研究・教育機関において、ほとんどの院生が将来教職に就く授業で教員研修の意義について講義をおこなう。学校における多文化共生・国際理解の実現という課題をどのよう乗り越えていくのかを議論し、現状について把握し、よりよい学校にするために私たちは何ができるのかを考え、行動し続けていく。

【11】今後、続けていく活動について

● 研修参加メンバーで作成した、JICA 横浜2024授業アイデア集を活用してもらう。職員室の目につくところに置いておき、自由に使ってもらえるようにする。

● 本校には多文化共生コーディネーターの外部スタッフが毎週木曜に来校され、日本語学習のサポートをしている。その活動に私も参加していく。

● 教科会で多文化共生に関する議論を進めていく。

● いわゆる人種や民族に関する生徒指導についても、生徒指導支援グループに情報提供できるようにしていく。外国につながる生徒も、日本生まれ日本育ちの生徒についても、過ごしやすい学校づくりを目指す。

● 多文化共生や移民に関して造詣が深い JICA などの専門家を招いた講演会や授業でのコラボレーションを行っていきたい。

参考資料

■授業ワークシート作成の参考文献等

- ・ 貿易イラスト「イラスト素材無料提供サイト イラストポップ」
https://illpop.com/png_school/social_a16.htm より
- ・ 地球イラスト「無料イラスト配付サイト ピクトアーツ」
<https://pictarts.com/17/04-world-map/0331-free-illustration.html> より

■授業スライド作成の参考文献等

- ・ 文部科学省(2018) 「高等学校 学習指導要領」
- ・ 毛受敏浩(2020) 『移民が導く日本の未来』明石書店
- ・ 西日本新聞2018 0113 <https://www.nishinippon.co.jp/item/o/386219/>
- ・ 沖縄サントス公式HP <https://okinawa-santos.jp/> 2024 0830最終閲覧
- ・ 総務省HP
- ・ 法務省HP
- ・ NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240726/k10014524651000.html>
- ・ NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240901/k10014568421000.html>
- ・ 産経新聞 <https://www.sankei.com/article/20240924-NGI4ALAO5NG2XFYFNYG4TA6MH4/>
- ・ ブラジル日報2024 0625 <https://www.brasilnippou.com/2024/240625-column.html>
- ・ 「アメリカンビュー」アメリカ大使館公式マガジン
<https://amview.japan.usembassy.gov/immigrant-entrepreneurs-power-us-economy-j/#::-:text=%E3%82%B0%E3%83BC%E3%82B0%E3%83AB%E7%A4BE%E3%81AE%E5%85B1%E5%908C%E8%A8%AD%E7%AB%8B,%EF%BC%A1EF%BC%A2EF%BC%A3%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83BC%E3%82B9%E3%81%A7%E8%AA%9E%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%80%82>
- ・ 独立行政法人 経済産業研究所 <https://www.rieti.go.jp/jp/publications/nts/14j018.html>

■校内報告会の参考文献等

- ・ バウロ・フレイレ(1979)、小沢有作ら訳(1979)『被抑圧者の教育学』
- ・ 歴史教育者協議会(2015)『歴史地理教育2015年2月号(830号)』
- ・ 額賀美紗子、芝野淳一、三浦綾希子(2019)『移民から教育を考える』ナカニシヤ出版
- ・ JICA横浜研修資料
- ・ JICA <https://www.jica.go.jp/about/basic/vision/>
- ・ 愛知県国際交流協会 <https://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/brasil/brazilkihon.pdf>
- ・ 日経新聞 <https://www.nikkeishimbun.jp/2017/171212-22brasil.html?print=print>
- ・ 株式会社「明治」 <https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/worldculture/brazil/>
- ・ 法務省 <https://www.moj.go.jp/isa/content/001403955.pdf>
- ・ 外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/index.html>
- ・ 東京大学 https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00023.html
- ・ 朝日新聞 <https://globe.asahi.com/article/13996571>
- ・ 毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20190831/k00/00m/030/134000c>
- ・ 産経新聞 <https://www.sankei.com/article/20240924-NGI4ALAO5NG2XFYFNYG4TA6MH4/>
- ・ NHK https://www.nhk.or.jp/kokokoza/chirisougou/contents/resume/resume_0000000468.html
- ・ NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240901/k10014568421000.html>
- ・ グローバルノート <https://www.globalnote.jp/post-1697.html>
- ・ BBC NEWS JAPAN <https://www.bbc.com/japanese/articles/cw596xzygl1o>
- ・ 報道ステーション 2024年9月24日 放送回
- ・ NHKスペシャル 2023年11月16日 放送回

■TEM図作成の参考文献等

- ・ 外務省HP
- ・ 帝国書院(2024)『明解 歴史総合 図説 シンフォニア』
- ・ 朝尾直弘、宇野俊一、田中琢編(2013)『最新版 角川新版 日本史辞典』
- ・ 朝日新聞 2024年7月26日 <https://www.asahi.com/articles/ASS7T752LS7TUHBI02QM.html>
- ・ <https://discovernikkei.org/ja/journal/2014/2/28/historical-overview/>

高校 公共 「世界とつながる私たちー多文化共生にむけて」

1年[]組[]番
名前[]

目標 私たちの生活と世界のつながりを理解する

私たちの生活は世界との交流、貿易なしでは成り立たないほど、グローバル化は進んでいます。輸出入に加えて、安定した生活は国際政治や外交の賜物といえる。文化交流なしに各国の音楽や映画、食事を楽しむことはできません。国際理解の精神を養い、多文化共生への理解を深め、自国と他国の尊重を目指します。

■ミッション A:経済と貿易

1:私が調べた MADE IN ○○ 一覧

モノ	MADE IN	モノ	MADE IN
例:サッカーボール	パキスタン	例:マグカップ	フィンランド

※自分の生活を支えてくれるモノは、どこでだれによって製造されているのだろうか。
なぜそこで製造されているのだろうか。

2:モノの生産国を調べて気付いたこと

共通点や特徴など →	なぜそうした共通点や特徴があるのか?私の考え →
---------------	-----------------------------

3:身のまわりのモノの生産国で多かった国のトップ3は？		
1位	2位	3位

4:調べた国のモノは、なぜ日本に多く輸入されているのだろうか？

※「〇〇製 多い 理由」などで検索してみよう

情報の出所:

5:身のまわりのモノを調べて出てきた疑問	
私の疑問	クラスメイトの疑問

啓蒙思想の学習でみてきたように、自由は近代以降重視されてきました。それは経済においても同様で、資本主義の1つのキーワードに自由があります。日本製の商品を買うと日本での雇用が増える可能性があります。人件費を削減するために日本の会社でも海外に工場において生産することもあるし、他国の会社が日本に工場をおくケースもあるだろう。素晴らしい他国製品や、値段が安いという理由でモノを買うことにより価格競争がおこったり、品質を上げるための企業努力が生まれることもあります。反対に利益の追求がいきすぎてしまうと、生産者・労働者に正当な賃金が支払われなかったり、公害につながったり、不公正な貿易になるリスクもあります。私たちが何を遊ぶかは自由ですが、買い物という消費行動でどのような社会にするかを選択しているともいえます(消費者主権)。

私たちの生活は世界とのつながりなくしては成り立たないのに、なぜ排外主義やヘイトがなくならないのだろう？

■ミッションB:人の移動

経済活動や政治の影響で人々は様々な地域に移動してきました。私たちも今暮らしている場所以外での生活を経験する可能性はあるでしょう。

もしあなたが日本以外の国で暮らすことになったら、どのような社会を望むでしょうか。まずは直面するかもしれない困難について考え、話し合ひましょう。

シュミレーション:20年後の私

年齢	36歳
在住	横浜市磯子区
家族構成	配偶者(36歳:会社員) 娘(8歳:小学2年生) 息子(4歳:幼稚園)
職業	会社員
勤務地	神奈川県内



ステップ1:国名を選択肢から選ぶ
あなたは会社から転勤を命じられ、
【国名→】に行くことになりました。
その国へは一度も行ったことはありません。赴任期間は10年の予定です。

選択肢:グループで話し合つて決める。他のグループが選んだ国と同じ国は選べない。

メキシコ	デンマーク	中国	ウガンダ	エストニア	イラン	ギリシャ
ブラジル	韓国	モロッコ	サウジアラビア	モンゴル	アルゼンチン	タイ

ステップ2:赴任する国の基礎データを探る
PC・クロームブックで「国名〇〇 外務省」で検索すると、外務省がその国の基礎データを出しています。まずはその国がどこにあり、どのような国か基礎データを探って理解しましょう。

【国名:】の基礎データ 外務省 HP の情報

ステップ3: 赴任先で直面するかもしれない困難について考える
 実際にその国での生活を想像し、どのような困難に直面するか、思いつく限り書き出してみよう！

箇条書きで列挙しよう	
---	--

ステップ4: どのような支援・サポートがあれば暮らしやすいか考える
 その国で「移民・外国人」である自分にとって、どのような支援・サポートがあれば暮らしやすくなるのだろうか？

その国の政府による支援・サポート →	その国の民間・地域など政府以外の支援・サポート →
--	---

ステップ5: あなたは移住予定の国で暮らしていくうえで、どのように暮らしたいですか？
 クラスルームに打ち込みましょう！

今回はシミュレーションであり、海外転勤の想定ですが、実際には戦争や迫害など政治的な問題によって異国での暮らしがはじまることもあります。

参考文献
 ・貿易イラスト「イラスト素材無料提供サイト イラストポップ」https://ilpop.com/png_school/social_a16.htm より
 ・地球イラスト「無料イラスト配付サイト ピクトアーツ」<https://piclarts.com/17/04-world-map/0331-free-illustration.html> より

JICA実践授業(研究授業) 「多文化共生と移民」 神奈川県立磯子工業高等学校 地歴公民科 教諭 芝 健司	ヘイトスピーチ根絶のために 法務省より 特定の国の出身者であること又はその子孫であることのみを理由に、日本社会から追い出そうとしたり危害を加えようとしたりするなどの一方的な内容の言動が、一般に「ヘイトスピーチ」と呼ばれています。 (内閣府「人権問題に関する国際調査(平成29年1月)」より)。 例えば、 (1)特定の民族や国籍の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをおし立てるもの (2)特定の民族や国籍に属する人々に対して危害を加えるとするもの (3)特定の国や地域の出身である人を、著しく見下すような内容のもの ※積極的かつ意思深い発言・議論を皆さんに期待しています。	学習指導要領上の位置づけ — 1 目標 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方主き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主体を担う公民として、祖国を愛し、その発展と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 (文部科学省,2018,p.79)
学習指導要領上の位置づけ — 2 内容 B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福・正義・公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。(文部科学省,2018,pp.80-81) 3 内容の取扱い (3)ア この科目の内容の特徴に応じ、学習のねらいを明確にした上でそれぞれ関係する専門家や関係機関などとの連携・協働を積極的に図り、社会との関わりを重視した主題を追究したり解決したりする活動の充実を図るようにすること。 (文部科学省,2018,p.82)	教科書の該当箇所 — ・使用教科書 高等学校「公共」数研出版 ・該当項目 第2章「公共的な空間における基本理則」基本的人権・人権の広がりなど 第4章「政治に参加する私たち」国際社会・世界の人権問題など ※経済的なつながりに関する指導は第5章「経済活動を行う私たち」の内容にも該当する。	本時(55分)のタイムテーブル 5分 導入ワーク「共通点を探せ」 5分 映像視聴「沖縄サントス予告編」 ニュース紹介「ブラジル政府の謝罪」 20分 ディスカッション「多文化共生をはばむものは何か?」 →ホワイトボードに記入(10分)+発表+質疑応答(10分) 20分 ブラジルと日本を中継 ZOOMにて質疑応答 講師自己紹介(5分) 質疑応答(15分) 5分 ふりかえり Googleクラスルームに打ち込み
多文化共生とは ・定義 「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省,2006) 「多文化共生の推進に関する研究会報告書〜地域における多文化共生の推進に向けて」 において示された。	導入ワーク「共通点を探せ」 Q: 次の3人には共通点があります。それは何だろう? スティーブ・ジョブズ [1] の創業者 ジェフ・ベゾス [2] の創業者 セルゲイ・ブリン [3] の創業者 	A: 3人の共通点は「移民」であること。 [1] アップル創業者 スティーブ・ジョブズはシリア移民の子ども。 [2] アマゾン創業者 ジェフ・ベゾスはキューバ移民の子ども。 [3] グーグル創業者 セルゲイ・ブリンはロシア移民の子ども。 ・移民を排除せず包摂し、人権を尊重し、文化の融合によって社会は発展していくのでは? ※移民を人口減少「対策」、や、経済発展に「活用」という視点のみでは、移民の人権が軽視される危険性がある。 例: 世界にも例を見ない少子高齢・人口減少社会を迎える日本にとって望ましい移民政策を探る(経済産業研究所,2013)
映像視聴「沖縄サントス」 公式Youtube予告編 概要 - 第二次世界大戦前夜から戦中のブラジル、 - 高まるナショナリズムを背景に「フィルム・オキナワ・サントス」を制作し、 - 松田聖子が主演し、 1943年7月8日、戦争は終結する。開戦以来初めて平和な日々を送ることができたという人々の喜びが溢れていた。 	ブラジル政府の謝罪 NHKより 「ブラジル政府 戦中・戦後の日本移民への虐待行為など認罪謝罪」 2024年7月26日 - ブラジル政府は第二次世界大戦中やその直後に、日本の移民を刑務所に収容して虐待したり立ち退きを強行したりした行為について誤りを認め謝罪しました。 - ブラジル政府が日本の移民への対応で公式に謝罪をするのは初めてです。 	多文化共生の難しさ: ドイツの状況 NHKより ・獨逸政変「ドイツのための選択: AfD」の躍進 →AfDの勢力が増し、極右に対するネオナチとの批判が起こり、国内で分断がすすむ ・AfDの主張 社会の衰退、社会保障制度の破綻、ドイツのアイデンティティーの喪失につながる「多文化」化を止めなければならない 
幸福の国? 北欧の多文化政策転換 産経新聞より ・スウェーデン「500万円あげるから帰って」 移民の自主出国促す 2024/9/24 ・スウェーデン政府は自主帰国を決めた移民に対し、1人当たり最大5万クローナ（約400万円）を支給する新制度を発表。移民の出国を促すが狙いで、2026年から実施。寛容な難民受け入れを誇った人道大国は、大きく政策を転換。治安から多くの難民を受け入れてきた結果、1千万人の全人口のうち、移民とその家族がおよそ2割を占めるようになった。白人会派に押され、オープン国に加わる価値も多く、犯罪率増加が社会問題になっている。 新制度のモデルとなったデンマークは2010年以降、10万デンマーク・クローネ（約120万円）を超える給付金で、難民や移民の自主帰国を促している。 	参考文献 - 文科科学省(2018)「高等学校 学習指導要領」 - 文化放送(2020)「移民が奪く日本の未来」時事通信 - 毎日新聞(2018) 013 https://www.mainichi.co.jp/news/2018/01/13/2018011300000.html - 沖縄サントス公式HP https://shintos.com/ja/ 2024 0830最終閲覧 - 総務省HP - NHK https://www3.nhk.or.jp/news/html/2024/07/26/20240726_14101454651000.html - NHK https://www3.nhk.or.jp/news/html/2024/07/26/20240726_141014546421000.html - 産経新聞 https://www.asahi.com/articles/20240826-MGJHALA09SGZDKFYFYGTAAMH/ - フランス日報 2024 0625 https://www.francepresse.com/2024/06/25/culture-japan.html 「アジアリポート」アジア文化振興センターP/F https://amrnm.japan.go.jp/en/eng-introduction/ - 独立行政法人 経済産業研究所RFP https://www.aet.go.jp/jp/publications/rfa/14018.html	ディスカッション 問い「多文化共生をはばむものは何か?」 ・多文化共生の定義 「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省,2006) ・ホワイトボードに記入(10分)→発表+質疑応答(10分) 皆さんがふだん生活している中で、多文化共生が難しいと感じることもあったかもしれませんが、自分の生活と関連付けて考えてみましょう。 ・問いに対しての考え、結論をホワイトボードに記入(理由が大切)→発表
「あいこの会」代表 アンドレさんへのインタビュー ※今から、日本とブラジルを、オンラインでつなぎます ・アンドレさんは日本とブラジルで暮らしたご経験をお持ちです。 ・多文化共生、国際理解といったテーマに関して、質疑応答によって、理解を深めていきましょう!	授業のふりかえり ・ラスト5分・・・Googleクラスルームに入力 「多文化共生をはばむものは何か?」についてあなたの考え、意見を打ち込みましょう!	

ご協力いただいた皆様

- ・ かながわ開発教育センター (K-DEC)
- ・ 小野行雄氏 (かながわ開発教育センター)
- ・ 公益財団法人海外日系人協会
- ・ NPO 法人 ABC ジャパン
- ・ JICA 横浜教師海外・国内研修過年度参加者の皆様

スタッフ

- ・ JICA 横浜 長縄慎吾
- ・ JICA 横浜 五味誠一郎
- ・ JICA 横浜 中野貴之
- ・ 株式会社メディア総合研究所 (2024 年度運営事務局)



独立行政法人国際協力機構
横浜センター (JICA 横浜)

〒231-0001 横浜市中区新港2-3-1

Tel : 045-663-3253 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : yictpp@jica.go.jp

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>

